混 浴 温 泉 世 界

mixedbathingworld

ベップ・アート・マンス 2015

事業報告書

2016 年 3 月 31 日

別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」実行委員会

■　目次

■　主催者あいさつ …… p2
第１章　はじめに
１－１．事業概要 …… p3
１－２．運営組織 …… p4
１－３．ディレクターメッセージ …… p5
第２章　開催記録１　別府現代芸術フェスティバル2015「混浴温泉世界」
２－１．企画概要 …… p6
２－２．各アートプロジェクト
① アートゲートクルーズ …… p7
② ベップ・秘密のナイトダンスツアー …… p9
③ 永久別府劇場・恐怖の館 …… p11
④ わくわく混浴デパートメント …… p13
２－３．同時期開催の展覧会
① KASHIMA 2015 BEPPU ARTIST IN RESIDENCE …… p15
② BEPPU PROJECT 2015 …… p16
２－４．関連イベント …… p20
２－５．来場者について …… p24
２－６．運営について
① 鑑賞料金について …… p30
② パスポート連携特典について …… p31
③ ボランティアの状況 …… p32
第３章　開催記録２　「ベップ・アート・マンス 2015」
3-1．企画概要 …… p33
3-2．実施団体・プログラム …… p33
3-3．来場者について …… p53
3-4．運営について …… p58
3-5.「ベップ・アート・マンス 2015」意見交換会の開催 …… p60
第４章　共通の取り組み
4-1．広報活動と開催効果 …… p61
4-2．観光消費額 …… p64
第５章　収支状況 …… p65
第６章　事業評価
6-1．事業評価の手法について …… p66
6-2．事業評価について …… p67
6-3．今後に向けた課題 …… p71
第７章　総括と展望 …… p72

■　主催者あいさつ

2015 年 7 月 18 日から 9 月 27 日にかけて、別府市内各所で開催した別府現代芸術フェスティバル 2015「混浴温泉世界」(以下、「混浴温泉世界 2015」)および「ベップ・アート・マンス 2015」が 72 日間の会期を終え、閉幕を迎えました。おかげさまで「混浴温泉世界 2015」には 53,825 名、「ベップ・アート・マンス 2015」には 53,474 名と、県内外から多くの方々に足をお運びいただきました。

2009 年より 3 年に 1 度、文化芸術によって地域の魅力を全国に発信する目的で開催してきた「混浴温泉世界」は、今回の開催をもって最終回となりました。準備期間を含む約 10 年間の活動の集大成と位置づけ「混浴温泉世界 2015」は、地域と作品をより深く体験していただくためのツアー形式のプログラムをはじめ、デパートの中での展覧会、お化け屋敷様式のパフォーマンス公演など、地域に寄り添い、世代性別問わずお楽しみいただける芸術祭として開催いたしました。また、「ベップ・アート・マンス」は今年で 6 回目の開催となりましたが、年々市民の活動が活発化し、地域にイノベーションをもたらし続けているように感じております。
ここに両芸術祭の成果や、内外から寄せられたご意見・ご感想をまとめ、報告書として上梓することによって、今後の別府市における文化芸術振興の新たな布石とさせていただきます。

今後も実行委員会では、市民が主体となり文化芸術を活用した地域活性化を推進し、文化創造都市「別府市・大分県」の実現を目指して活動を続けてまいります。別府市における文化芸術振興のさらなる飛躍に向け、本事業のあり方を今一度見直し「ベップ・アート・マンス」と両輪となる新たな事業によって、「湯の町、別府に相応しい芸術」のあり方を提案していく所存です。

末尾となりましたが、これまで私どもと共に「混浴温泉世界」および「ベップ・アート・マンス」の開催に向けご尽力、ご指導をいただいた皆様、またご参加いただいた大勢の皆様に感謝を申しあげ、御礼とさせていただきます。

別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」実行委員会
実行委員長　中山欽吾

第１章　はじめに

１－１．事業概要

事業概要

源泉数、湧出量とも全国随一である大型温泉観光地、大分県別府市。戦災を免れたこのレトロな町は、近年、鮮度と集客力を失い、中心市街地の空洞化や若者の定住離れが進み、魅力ある地域づくりが最重要課題となっている。このような状況下、路地裏散策やウェルネス産業推進に取り組むNPO、学生・留学生によるまちづくり団体、そして日常的な文化芸術振興を行うアートNPO等の活動によって、単一の価値観ではなく、多様性を受け入れ変化に対応した地域社会を支える文化基盤の創出が図られつつある。さらに、このような「地域×アート」の取り組みは、別府市だけではなく大分市や国東半島をはじめ、県内各所で展開されだしており、平成27年春に開館した大分県立美術館、夏に実施したJRデスティネーションキャンペーンを機に、大分県内各所での「地域×アート」事業を連携させる仕組みづくりを行うことで、全国そして世界に向けて大分県の魅力を発信した。今回、その中核事業として「混浴温泉世界 2015」を位置づけ全体の相乗効果を図った。３回目となる本事業は、「世界は不思議に満ちている」をテーマに、ライブ感溢れる、特徴的なプロジェクトを市内各所で展開。特にツアーでしか体験できない二つのプロジェクトに象徴されるように、コンパクトなエリアでの、場所の理解に基づいた深さを追求する芸術祭の在り方を提示した。本事業によって、従来の観光地のイメージに加え、市民が主体となる特徴ある地域活性化と、文化創造都市「別府市・大分県」の実現の推進を図った。

開催クレジット

名称	別府現代芸術フェスティバル 2015「混浴温泉世界」
主催	別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」実行委員会
共催	独立行政法人 国際交流基金（The Japan Foundation）
日時	2015(平成 27)年 7 月 18 日(土)～9 月 27 日(日)（72 日間、※定休日はプログラムごとに異なる）
会場	大分県別府市内各所(中心市街地／鉄輪＜かんなわ＞地区)
助成	文化庁(平成 27 年度文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業)、公益財団法人 福武財団、一般財団法人 大分放送文化振興財団
協賛	全日本空輸 株式会社、アサヒビール 株式会社、株式会社 大分銀行、株式会社 資生堂、株式会社 トキハ、株式会社 マリーンパレス、大分みらい信用金庫、NPO 法人 鉄輪湯けむり倶楽部、佐伯印刷 株式会社、別府商工会議所、大分ガス 株式会社、大分県立芸術文化短期大学、べっぷ 野上本館、一般社団法人 別府市観光協会、ホテル白菊、ホテル ニューツルタ、悠彩の宿 望海、山口産業 株式会社、鬼塚電気工事 株式会社、九州労働金庫 大分県本部、公益社団法人 ツーリズムおおいた、JR 九州ビルマネジメント 株式会社、株式会社 山下工芸、ガルーダ・インドネシア航空
協力	おおいたトイレンナーレ実行委員会
後援	別府市、大分県教育委員会、別府市教育委員会、公益社団法人 ツーリズムおおいた、別府商工会議所、一般社団法人 別府市観光協会、別府市中心市街地活性化協議会、大分県民芸術文化祭実行委員会、大分県芸術文化振興会議、別府駅前通商店街振興組合、別府料飲協同組合、大分合同新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、日本経済新聞社大分支局、西日本新聞社、今日新聞社、NHK 大分放送局、OBS 大分放送、TOS テレビ大分、OAB 大分朝日放送、エフエム大分、CTB メディア、ゆふいんラヂオ局、月刊・シティ情報おおいた、有限会社 ネキスト
	＊五感に響け　新しい波　第 17 回大分県民芸術文化祭参加行事

1－2． 運営組織

実行委員会

2015 年 7 月 18 日現在

顧問	広瀬勝貞		大分県　知事
	長野恭紘		別府市　市長
	千壽健夫		別府商工会議所　会頭
	梅野朋子		一般社団法人 別府市観光協会　会長
	上月 敬一郎		別府市旅館ホテル組合連合会　会長
委員	中山欽吾	実行委員長	大分県立芸術文化短期大学　学長
	菅 健一	副実行委員長	NPO 法人 別府八湯トラスト　代表理事
	磯田 健		大分県 企画振興部観光・地域局　地域活力応援室　室長
	榎 徹		大分県 東部振興局　局長
	三浦宏樹		公益財団法人 大分県芸術文化スポーツ振興財団　参与
	伊藤慶典		別府市 ONSEN ツーリズム部　部長
	荒川孝二		公益社団法人 ツーリズムおおいた　事務局長
	渡邊秀一		別府商工会議所　専務理事
	古庄　剛		一般社団法人 別府市観光協会　専務理事
	尾野文俊		大分経済同友会　常任幹事・地域委員長
	林 道弘		別府市商店街連合会　会長
	大蔵開平		別府溝部学園短期大学　教授兼広報課長
	田中修二		大分大学　准教授
	於保政昭		大分県立芸術文化短期大学　専任講師
	野々下 一也		九州旅客鉄道 株式会社　別府駅長
	村岡修治		JTB 九州　大分支店長
	甲斐浩司		大分合同新聞社 イベント事業一部　部長
	鶴田 浩一郎		NPO 法人 ハットウ・オンパク　代表理事
	甲斐賢一		NPO 法人 鉄輪湯けむり倶楽部　代表理事
	樋口貞幸		NPO 法人 アート NPO リンク　事務局長
	佐東範一	キュレーター	NPO 法人 Japan Contemporary Dance Network　代表
	山出淳也	総合プロデューサー	NPO 法人 BEPPU PROJECT　代表理事
監事	堀 精治		別府市旅館ホテル組合連合会　事務局長
	篠藤明徳		別府大学　教授
調整委員会	堀 政博		大分県企画振興部　芸術文化スポーツ局 芸術文化振興課
	工藤慎也		大分県東部振興局　地域振興部　地域振興班
	田北浩司		別府市 ONSEN ツーリズム部　文化国際課長
	野口一郎		別府商工会議所
	工藤浩司		一般社団法人 別府市観光協会　総務課長補佐
	安波治子		NPO 法人 鉄輪湯けむり倶楽部

事務局　NPO 法人 BEPPU PROJECT

1－3． ディレクターメッセージ

「混浴温泉世界 2015」と「ベップ・アート・マンス 2015」を終えて
～われわれはふたたび船を出す。

第３回にあたる「別府現代芸術フェスティバル 2015『混浴温泉世界』」は、2015年7月18日から9月27日まで開催された。今回でこの形式でのフェスティバルは終了させ、次のフェーズを模索することになる。3回目で一度立ち止まり、すべてを見直すという考えは、当初から関係者内で協議してきたことで、唐突な決定ではない。継続が力であることは疑いないが、継続のための継続という意識が生まれることはどうしても避けたい。あらゆるプロジェクトについて言えることだが、始めることよりも終了させることのほうが難しいものだ。あらかじめプロジェクトに自らの終了を内蔵させておくというモデルを提起したいと考えて、3回目での一区切りを設定したのである。

ひとつのフェーズを終わらせることになるので、今回の「混浴温泉世界」は原点に立戻ることを強く意識した。ではその原点とは何か？それは「この身体を使って別府のまちを歩き、さまざまな不思議と遭遇する」という、極めてシンプルな想いである。

そこで、ふたつのツアー型プログラムを中核に置いた。ひとつは案内人に導かれ、別府の内奥へと旅立つ「アートゲートクルーズ」。もうひとつはまちを劇場と考え、さまざまな場所で展開されるダンス作品を見て回る「ベップ・秘密のナイトダンスツアー」。ともに鑑賞人数は極端に制限されるが、個々人の濃密な体験こそを最重視して、あえてこのような形式をよしとした。とはいえ、予約なしに気軽に立ち寄れるプログラムも用意すべきと考えて、常に開かれた「永久別府劇場・恐怖の館」と「わくわく混浴デパートメント」の2本のプログラムも用意した。「永久別府劇場・恐怖の館」は好評で入場待ちが出るという嬉しい誤算もありはしたが、人数制限のない、ツアー形式以外のプログラムを設けたことは適切だったと思う。枠組みとしては「混浴温泉世界」外のプログラムだが、同時期、市民文化祭である「ベップ・アート・マンス 2015」や「KASHIMA 2015 BEPPU ARTIST IN RESIDENCE」、「BEPPU PROJECT 2015」も開催することで、この期間、別府のまちの各所でアートが展開するような、総合的な見地からのプログラム配置も考慮した。

さらに今回は、より広域な展開を意識した構成にも取り組み、とくに大分市中心市街地のトイレを舞台に展開された「おおいたトイレンナーレ 2015」とほぼ同時期の開催を調整するなど、アート体験を目的に別府を訪れる方々に、多様なメニューが提供できるような配慮にも腐心した。

このように通常の「展示」に終わらない試みが多々あったから、スタッフやサポーターを含め、関係者には多大な労力を強いることになった。丁寧につくるためには仕方ないこととはいえ、「混浴温泉世界 2015」を支えてくださったすべての方々に、この場を借りて深く感謝する。

準備期間から考えれば、ほぼ10年にわたるひとつの航海が終わり、われわれは次のフェーズを目指して、ふたたび船を出すことになる。

別府現代芸術フェスティバル2015「混浴温泉世界」
総合ディレクター　芹沢高志

２－１．企画概要

テーマ

“世界は不思議に満ちている”

口当たりの良い分かりやすさばかりが求められ、ますます均質化する現代において、アーティストは世界の根源的な謎を提示し、我々の無限の想像力を解放し続けている。外国人の居住率が日本で最も高く、古くから多様な文化を受け入れてきた別府。独自の歴史をたどってきたこの場を舞台に、特徴のあるプロジェクトを展開する。

コンセプト

大地から湯が湧きだし、窪みに溜まる。それは誰のものでもない。
人はそれを慈しみ、自発的に守り維持する。
そして、ここに住む人も旅する人も、男も女も、服を脱ぎ、湯につかり、
国籍も宗教も関係なく、武器も持たずに丸裸で、
それぞれの人生のあるときを共有する。
しかし、つかりつづければ頭がのぼせ、誰もそのままではいられない。
入れ替わり湯から上がり、三々五々、ここを去っていく。
人は必ずここを立ち去り、再び訪れる。ゆるやかな循環。

ディレクターチーム

総合プロデューサー	山出淳也（NPO 法人 BEPPU PROJECT　代表理事）
総合ディレクター	芹沢高志（P3 art and environment　統括ディレクター）
キュレーター	佐東範一（NPO 法人 Japan Contemporary Dance Network　代表）
広報	市川靖子

2－2． 各アートプロジェクト

① アートゲートクルーズ

プログラム名	アートゲートクルーズ
実施日	毎週月・木・金曜 18:00～20:30 毎週土・日曜および祝日 16:00～18:30、18:00～20:30 （全 85 回）※増便含む
実施場所	別府市中心市街地 各所
料金	中学生以上 前売券1,500円／当日券2,000円、小学生 500円（未就学児無料）
参加者人数	1,446 名

内容

松方正義の発案で明治 4 年に別府港が開かれて以来、別府は日本の近代化に寄り添って、その姿を変えてきた。空襲を免れたことも幸いし、ここにはさまざまな時代の残り香が今もなおかすかに漂っている。大きな歴史ではない、無数の人々のささやかな想いが積層し、その上に今の別府が夢のように浮かんでいる。そんな別府の奥深く、今は使われていない建物や入り組んだ路地裏、ひっそりと広がる地下室など、普段は立ち入ることのできない町の内奥で、アーティストたちが場所と対話し、それぞれのエピソードを紡ぎだした。本プログラムは、案内人に導かれ、もうひとつの時間空間をさまよい歩く、特別なアートツアーとなった。

参加アーティスト

枝 史織、大友良英、クワクボリョウタ、蓮沼執太 (五十音順)

プログラムの様子

スタッフによる注意事項等説明

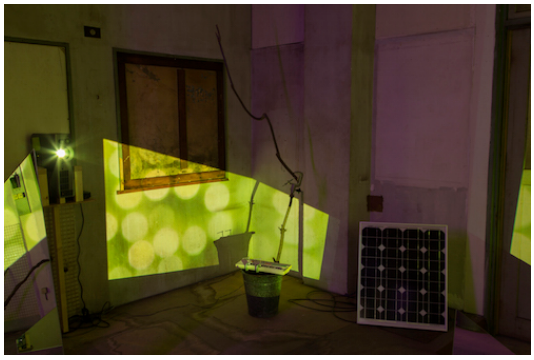
ツアー中の様子

枝 史織作品

枝 史織作品

プログラムの様子

蓮沼執太作品



蓮沼執太作品

クワクボリョウタ作品

クワクボリョウタ作品

大友良英作品

大友良英作品

枝 史織作品

② ベップ・秘密のナイトダンスツアー

プログラム名	ベップ・秘密のナイトダンスツアー
実施日	毎週金・土および 7 月 19 日(日)、8 月 13 日(木)、9 月 20 日(日)、21 日(月・祝)、22 日(火・祝) 20:00～21:30（全 26 回）
実施場所	別府市中心市街地 各所
料金	中学生以上 前売券1,500円／当日券2,000円、小学生 500円（未就学児無料）定員50名
参加者人数	1,434 名

内容

別府市中心市街地のさまざまな場所を会場に、ダンス／パフォーマンス公演を鑑賞しながらまちなかを巡る、まちあるきツアー型のプロジェクト。観客は20時に別府駅前に集合し、案内スタッフに導かれて徒歩で出発する。会場がどこかは事前に知らされず、アーケード商店街や飲食店の立ち並ぶ細い路地などを通り、夜の町の雰囲気を味わいながら会場へと導かれる。１度のツアーにつき立ち寄る会場は3～4カ所で、各20分程度のダンス／パフォーマンスを展開した。

町を劇場に。圧倒的な身体とダンスで誘う、不思議で妖しいベップの夜（本プロジェクトチラシ リード文より）
会場となる場所は公園、空き店舗、地下室、公民館、駐車場、屋上、公衆浴場前と、ダンス／パフォーマンスアーティストそれぞれの公演内容に相応しい場所を選定した。照明・音響は運搬移動しやすいものを用意し、会場の環境を活かした演出と迫力のあるダンス／パフォーマンスによって、普段何気なく見える場所を劇場へと変容させた。

出演ラインナップは招聘＋公募の組合せ
毎週ごとに出演者が変わることが魅力の一つとなり、毎回参加する常連客も少なくなかった。出演ラインナップは招聘アーティスト10組と公募アーティスト23組の組合せで構成。公募アーティストは2015年4月下旬に公募を開始し、2週間弱で全国から75件の応募があった。

公演スケジュールおよび参加アーティスト (各五十音順)

7 月 18 日(土)・19 日(日)	大橋可也&ダンサーズ、鈴木ユキオ、未来.Co
7 月 24 日(金)・25 日(土)	黒田育世、村田正樹、ロスホコス
7 月 31 日(金)・8 月 1 日(土)	かえる P、東野祥子、藤條虫丸&阿羅漢ファミリー
8 月 7 日(金)・8 日(土)	吟子、Nobuyoshi Asai+PIERRE MIROIR、米田沙織
8 月 13 日(木)・14 日(金)・15 日(土)	赤丸急上昇、ザ・プレミアム・ワルツ(酒井直之、橋本迅矢)、中西レモン
8 月 21 日(金)・22 日(土)	MuDA、横山彰乃[東京 ELECTROCK STAIRS]、吉福敦子
8 月 28 日(金)・29 日(土)	Monochrome Circus(合田有紀、坂本公成、野村香子、森 裕子、渡邉 尚)
9 月 4 日(金)・5 日(土)	Abe“M”ARIA、コンタクト・インプロビゼーショングループ C.I.co.、 大東京舞踊団
9 月 11 日(金)・12 日(土)	The NOBEBO、~(チルダ)、諸岡美里[テテルホテル]
9 月 18 日(金)・19 日(土)・20 日(日)	あうんともことお座敷仲間たち、素我螺部、中間アヤカ、yummydance
9 月 21 日(月・祝)・22 日(火・祝)	ガダニ企画、北村成美、ごとうゆう、Luminous Bullet
9 月 25 日(金)・26 日(土)	吟子、The NOBEBO、ロスホコス feat.RY

プログラムの様子

ツアー中の様子（商店街「やよい天狗通り」）

公演の様子（大橋可也&ダンサーズ）

公演の様子（ロスホコス）

公演の様子（中間アヤカ）

公演の様子（中西レモン）

公演の様子（吟子）

公演の様子（大東京舞踊団）

③ 永久別府劇場・恐怖の館

プログラム名	永久別府劇場・恐怖の館
実施日	毎週木・金・土・日および祝日 ※ただし 8 月 20 日(木)、21 日(金)、9 月 10 日(木)は展示・演出入れ替えのため休み (全 43 回)
実施場所	永久別府劇場（別府市北浜1-1-12）
料金	500円（予約不要／未就学児入場不可）
参加者人数	3,201 名
内容	
元ストリップ劇場をリノベーションした「永久別府劇場」を会場に、現代美術家や照明デザイナー、システムデザイナー、パフォーマーらがお化け屋敷を制作した。期間を3シーズンに分け、シーズンごとに異なるアーティストが空間演出をおこなった。土日は3時間待ちで長蛇の列ができるほど、小学生から中高年、県外アートファンから地域住民まで、幅広い層の人気を集めた。	
期間および参加アーティスト	
［第1期］ ANTIBODIES Collective 「The House of Ghosts–恐振する心霊実験劇場–」 7月18日(土) ～8月16日(日) 木・金曜 16:00~19:00 土・日・祝日14:00~19:00	「混浴温泉世界 2012」に参加し、商店街を丸ごと劇場化した「楠銀天街劇場」で話題を呼んだ東野祥子(ダンス)×カジワラトシオ(音楽)×OLEO(美術)などによる新しいユニット、ANTIBODIES Collectiveによる空間演出。廃材を壁に張り巡らせたダイナミックな外観は通行人の目を惹き付けた。「心霊の旅」をテーマに、観客は死装束のシンボルである三角の布をつけ、自らお化けになって入場する。舞台美術の専門家達が巧みに作りあげた場内で、東野祥子による演出・振付で若手ダンサー達が観客を驚かせた。キャストには地元の子ども達も参加。週末の夜には、ANTIBODIES Collectiveの自主企画による「おばけBAR」もオープンし、別府を訪れる旅行者をもてなした。
［第2期］ MuDA 「Darkness man」 8月22日(土) ～９月６日(日) 木・金曜 16:00~19:00 土・日・祝日14:00~19:00	京都を拠点に活動するハイパーパフォーマンスグループ・MuDAによる空間演出。観客は妖しげなBGMの流れるヘッドフォンをつけた状態で、黒いドレスを身にまとった案内人に連れられて場内を進む。観客は場内の各ポイントで、黒塗りの男性パフォーマーが叫びながら、自分の身体を床や壁に何度も衝突させるパフォーマンスを鑑賞した。
［第3期］ 福岡恐いもの研究会 「劇コワ！見知らぬおとなりさん」 9月11日(金) ～９月27日(日) 木・金曜 16:00~21:00 土・日・祝日 13:00~21:00 ※9月11日は16:00～19:00、9月27日は13:00～17:00	演出家・五味伸之を中心に結成された「福岡恐いもの研究会」によるストーリー性の高いお化け屋敷。ひた演劇祭(大分県日田市)や福岡でおこなった演劇式のお化け屋敷、通称「劇コワ！」を、本芸術祭でも実施した。別府市や大分市を中心にお化け役のキャストを公募し、事前ワークショップをおこなった。元ストリップ劇場の歴史と、ワークショップ参加者がそれぞれに持っている「恐い体験」を土台にして、架空のストリップ嬢“アケミちゃん”というキャラクターを中心にしたストーリー仕立てのお化け屋敷をつくりあげた。

プログラムの様子

外観

第1期の様子

(ANTIBODIES Collective)

第1期の様子

(ANTIBODIES Collective)

第2期の様子(MuDA)

第2期の様子(MuDA)

第 3 期の様子(福岡恐いもの研究会)

第 3 期の様子(福岡恐いもの研究会)

④ わくわく混浴デパートメント

プログラム名	わくわく混浴デパートメント
実施日	8 月 26 日(水)、9 月 9 日(水)を除く 70 日間／10:00～19:00
実施場所	トキハ別府店（別府市北浜 2-9-1）
料金	無料
参加者人数	46,362 名

内容

デパート全体を使った若手作家による展覧会。別府の老舗百貨店の 1 フロアを全面利用し、参加アーティストが各々の作品展示を行った。また、展示だけではなく、トークイベント、ライブペインティング、各種パフォーマンスなど、常に会場で何かが起こり続けるという、ライブ感溢れる多数のイベントを展開した。作家自ら展示作品等を案内するツアーも行われたため、訪れた観客は作品を観るだけではなく、アーティストと触れ合うきっかけにもなった。

参加アーティスト（五十音順）

アイウエオ、淺井真至、浅見俊哉、安部 沙保里、天野恭子、荒金松郎、荒木宣男、荒殿優花、Antenna、飯島剛哉、池田ひとみ、石川良子、伊藤 悠、一般社団法人 九州サブカルチャー連盟 CoolJapan おおいた、稲垣由紀、いるか姫、岩佐まゆみ&別府青山・別府翔青の高校生たち、イワモトジロウ、上田 惠美子、上田 珠真子、うえっぴぃ、紆莎伎、臼杵焼プロジェクト、NPO 法人 別府八湯温泉道名人会、えふみ、遠藤一郎、大塚 聰、大澤寅雄、大澤希林、大友大志、大友良英、O-口企画、おかかおり、岡野 恵未子、奥平 聡、小野 彩、小野峰靖、小野 愛、ONO YUMIKO、小野雄一、及部文人、皆藤 将、海野貴彦、かいゆき、勝 正光、カッパ師匠、加藤笑平、上川 こうた、上山 薫、加茂 昂、川合風望、木下賢也、kichi、木村祐樹、キャラバンⅢ、空間ペインター芳賀健太、草野 美知子、國吉 匠、椚あすみ、久原美穂、蔵人、keino a.k.a milkshaky、GEINS BRUIDS（山野勇気/梅谷 翼/中原彬希）、幸田千依、小枝 瞳、後沢有紀、コズリナ、ナデズダ、コタケマン、コバルト爆弾αΩ、コペコペカナオ、小間希美、小森文雄、Sae、齋藤 悠、坂田愛子、阪本真輝、saki、ささきののか、さばみそちゃん、さめしまことえ、さるよし、JJ 美術部、汐月陽子、重岡美有、重田美月、実験舞踏ムダイ、篠崎茶代、篠崎 理一郎、首藤日向、Cynthia Lujan、進 麻菜美、菅 英二、スガドラム、鈴木彩花、杉原信幸、炭谷 宇紀子、炭谷早紀、関 法子、関川航平、セシル、Sonopuro-Nopuro、代官山王国、ダイスケ、TAISEI OKAZAKI LIVECT&DJ、タカハシ’タカカーン’セイジ、高見 剛、田中愛理、田中健一、タナカヤスアキ、田辺美帆、旅する服屋さんメイドイン、OOM こと右田晴山、chami＊、cherry12、チームイワモト(今田 文/及部文人/しょうたろう)、CHU、chu、手塚夏子、東京ディスティニーランドは死んだ、都市商業研究所 feat.昭和なスーパーめぐり×デパート通信、冨安由真、豊田亜美、トリ・プサカ・サクティ舞踏団、長尾敏伸、中島さと、仲田 恵利花、ナチュラルハイ日野 with すまこ、中野莉菜、中村 留津子、中村良司、七瀬みずき、Nina Lodico、nelco(平井有美子・正也・糸麻・仁太)、野口竜平、信長、has75.、八雄、はまぐちさくらこ、林 加奈子、パンケーキ出土、バンブー、ひさつねあゆみ、豚星なつみ、ひつじっこクラブ(スーヤン/チムトン)、日名子 英明、日野 禎、平井正也、平魚 泳、平川 渚、平塚知仁、平野ももこ、瓶ビール班長、不気味ちゃん、福丸竜矢、藤林 悠、藤本まり子、豚まきプリントサービス、まくら、眞島竜男、松井千夏、松尾常巳、松尾晴代、まつだのぶはる、まつばらかおり(supernormal)　まちださき、町田有理、madoka.fu2yuan2、MadRice、Mark trusctto、水川千春、みなみりょうへい、宮内裕賀、宮本初音、宮崎宏史、Muumuu、無職・イン・エクスカーション(MIE)、村方 光沙子、村上彰子、村上 裕、森山 楓、森山桂司、Yaako、矢取よしえ、山下陽光、山田はじめ、山中カメラ、山野勇気、Yuko Nexus6、吉永ジェンダー、吉松「kachimo」文男、ライスボール山本、
わくわくどりのカーニバル（ちくちく隊：とも、むーさん、あんちゃん、こうた、ちゃみさん、さいらいじさん、ぶっちー、かずみさん、しおりん、寺田ママ、まつこ、山下、みやざきさん、どぅーさん、さばみそ、ダンス部：しげやん、空ちゃん）
（187 組）

プログラムの様子

展示風景

ワークショップ風景

会場の様子

２－３．同時期開催の展覧会

当実行委員会とNPO法人 BEPPU PROJECTが共催して展覧会を開催した。それぞれのプログラムを体験することで、より深い町の体験を提供した。芸術祭パスポートを提示すると有料会場に無料で入場できる連携もとった。

① KASHIMA 2015 BEPPU ARTIST IN RESIDENCE

プログラム名	KASHIMA 2015 BEPPU ARTIST IN RESIDENCE
主催／共催	NPO 法人 BEPPU PROJECT／別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」実行委員会
助成	平成 27 年度文化庁文化芸術の海外発信拠点形成事業
実施日	7 月 18 日(土)～9 月 27 日(日) 火・水曜定休 但し 9 月 22 日(火・祝)・23 日(水・祝)はオープン
実施場所	冨士屋 Gallery 一也百(別府市鉄輪上 1 組)
料金	300円
参加者人数	1,267 名

内容

プロジェクト・ディレクターのキース・ウィットル(英)により選抜されたアーティスト２組による滞在制作成果発表展を行った。アーティストは、湯治文化が今なお残る鉄輪地区に１ヶ月滞在し、別府におけるリサーチと地域住民との交流を経て作品を作った。

《アダム・チョズコ Adam Chodzko》

展示会場＝冨士屋 Gallery 一也百　２階和室、２階洋室、庭

別府で 1965 年に発行されたポストカードから着想を得た映像作品、会場の隣家の人々を巻き込んだフィクション、鉄輪地区で採集した自然素材や映像を使った作品などで空間を構成した。

《スタパ・ビズワズ Sutapa Biswas》

展示会場＝冨士屋 Gallery 一也百　１階和室、裏庭

着物を着る習慣のある女性や着物を受け継いでいる女性５名にインタビューをして作成したビデオ作品および立体作品などで、空間を構成した。着物そのものについての分析ではなく、着物を通して紐解かれる家族の歴史や彼女たちの価値観などを作品にまとめた。

参加アーティスト

アダム・チョズコ(英)、スタパ・ビズワズ(英)

プログラムの様子

アダム・チョズコ 展示風景

スタパ・ビズワズ 展示風景

② BEPPU PROJECT 2015

プログラム名	BEPPU PROJECT 2015
主催／共催	NPO 法人 BEPPU PROJECT／別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」実行委員会
助成	平成 27 年度文化庁優れた現代美術の海外発信促進事業
実施日	7 月 18 日(土)〜9 月 27 日(日) ※定休日は各施設に準ずる
実施場所	別府市中心市街地各所、ほか
料金	大平 由香理「女湯＝由布岳　男湯＝鶴見岳」：200円(末広温泉入湯料として) 蓮沼執太「松原温泉アンビエント」：100円(松原温泉入湯料として) 廣瀬智央「浜脇の長屋」：1名6,480円、2名10,800円(1泊分宿泊料金として) マイケル・リン「無題」：100円 アルテラジオ「ラジオジャーニー『音で旅する別府』」：500円 ラニ・マエストロ「Higugma(Breath.息)」：300円 他、無料
参加者人数	367,616 名　※屋外作品については、別府市歩行量調査数に基づいて算出。

内容

BEPPU PROJECT が 2005 年に活動を開始して以降、10 年間でまちなかに蓄積してきた作品と、本展のための新作をあわせて発表。新作については、国際的に活躍する海外の中堅作家、将来が期待される国内の新進作家などが、別府市街地の特殊な空間に作品を展示した。参加者は「アートまちあるきマップ」を片手に、同時期開催の「混浴温泉世界 2015」と共に作品を巡れるような仕組みとした。(以下作品一覧／順不同)

大平 由香理「女湯＝由布岳　男湯＝鶴見岳」(2015 年) 展示会場：末広温泉
昭和初期より営業している共同温泉「末広温泉」の浴場の壁に、清島アパート在住の日本画家である大平 由香理が、男湯、女湯それぞれのイメージに合った雄大な山々の姿を描きだした。

蓮沼執太「松原温泉アンビエント」(2015 年) 展示会場：松原温泉
松原温泉のために作曲された音楽が 1 時間おきに 18 分間流れる。演奏にはタブラ奏者・U-zhaan も参加。

廣瀬智央「浜脇の長屋」(2012 年) 展示会場：浜脇地区
「混浴温泉世界 2012」に出品された作品。別府温泉発祥の地ともいわれる、大分県別府市浜脇地区の築 100 年以上経つ長屋をアーティストとともに改装した。本展期間中は宿泊専用施設として運営。

マイケル・リン「無題」(2009 年) 展示会場：platform04 SELECT BEPPU
「混浴温泉世界 2009」に出品された作品。花に代表される台湾の伝統的なテキスタイルのパターンを借りて、築 100 年の長屋であるこの空間や建物の特徴を意識したふすま絵を制作。

アルテラジオ「ラジオジャーニー『音で旅する別府』」(2013 年) 展示会場：中心市街地〜浜脇地区
日常の生活音から、町で飛び交う人々の声まで、あらゆる音から生まれた作品。参加者はヘッドフォンで音を聞きながら、地図を片手に音(ラジオ)と共に町を散策した。

HITOTZUKI「"Evidence Clouds"〜HITOTZUKI 壁画」(2015 年) 展示会場：べっぷかんこうかい、立石ビル
ダイナミックに流れる曲線と華やかなシンメトリーのモチーフが交錯しながら描かれた独特の世界観が印象的な壁画。

マテー・アンドラス・ヴォグリンキク「Untitled」(2015 年) 展示会場：P3/BEP.lab
昭和初期に建てられた元商店である建物の記憶と向き合うことから生まれた、壮大なインスタレーション作品を発表。

草本利枝「another.Water」(2015 年) 展示会場：P3/BEP.lab
本芸術祭のメインヴィジュアルを 2009 年より手がけた草本利枝による、湯煙が印象的な別府の風景写真展。

ラニ・マエストロ「Higugma(Breath.息)」(2009 年) 展示会場：platform05
「混浴温泉世界 2009」に出品された作品。作家はこの場所に滞在し、インスピレーションを受けて制作。作家の育ての母が使っていたというタガログ語で詩的な言葉が綴られ、ろうそくの煤で彼女の感情の揺らめきが表現されたドローイング 10 枚から成る展示。

アガット・ドゥ・バイアンクール「Sky Window Outline」(2014 年) 展示会場：元町地区
作家は別府の温泉からインスピレーションを得た「青」を使用。窓枠がモチーフとなり、鑑賞者の視点により見え方が異なる壁画作品。

アイリ・ザング「The Waves and the city」(2014 年) 展示会場：北浜地区
路地裏にある、白いキャンパスのような壁面を利用し、作家が別府で見つけた枝や葉っぱなど自然の素材をベースに風景を描いた壁画作品。

国本泰英「Scene」(2015 年) 展示会場：北浜地区
別府の町を歩く人々をシルエットで描いた壁画作品。道行く人や町、場の記憶に寄り添うような存在になればという願いが込められている。

藤本隆行「Yang Tree(陽の樹)」(2015 年) 展示会場：海門寺公園
この場所に古くからある大きな楠を照らす光と楽曲の作品。楽曲は場所からインスピレーションを受け、作曲・録音された。

淺井裕介「海と山の間で生きている」(2015 年) 展示会場：トキハ別府店 立体駐車場屋上
雄大な景色に挟まれた巨大な屋上一杯に描かれた大きな生物。絵を見るのではなく絵の上を歩き回る体験型の作品。

マイケル・リン「別府 04.11 - 06.14.09」(2009 年) 展示会場：別府国際観光港 関西汽船のりば２階
「混浴温泉世界 2009」に出品された作品。朝、大阪から到着し、夕方には大阪へ向けて出港するフェリーの動きを「まるで太陽の動きのようだ」と表現し、波と花をモチーフに制作された巨大壁画。

参加アーティスト (五十音順)

アイリ・ザング、アガット・ドゥ・バイアンクール、淺井裕介、アルテラジオ、大平 由香理、草本利枝、国本泰英、蓮沼執太、HITOTZUKI、廣瀬智央、藤本隆行、マイケル・リン、マテー・アンドラス・ヴォグリンキク、ラニ・マエストロ

プログラムの様子

女湯＝由布岳　男湯＝鶴見岳(大平 由香理)

松原温泉アンビエント(蓮沼執太)

浜脇の長屋(廣瀬智央)

"Evidence Clouds"～HITOTZUKI 壁画(HITOTZUKI)

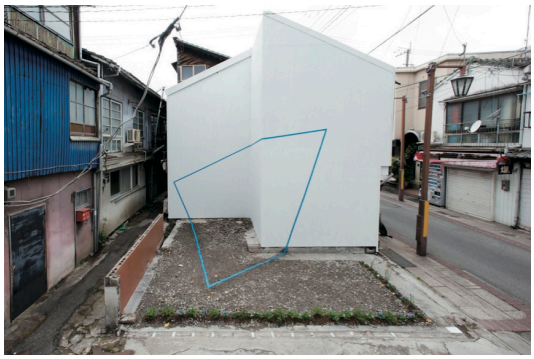
無題(マイケル・リン)

ラジオジャーニー「音で旅する別府」(アルテラジオ)

"Untitled"(マテー・アンドラス・ヴォグリンキク)

another.Water(草本利枝)

Higugma(Breath.息)(ラニ・マエストロ)



Sky Window Outline(アガット・ドゥ・バイアンクール)

The Waves and the city(アイリ・ザング)

Scene(国本泰英)

Yang Tree(陽の樹)(藤本隆行)

別府 04.11-06.14.09(マイケル・リン)

海と山の間で生きている(淺井裕介)

2－4． 関連イベント

プログラム名	記念シンポジウム「世界は不思議に満ちている」		
実施日	7/18(土)	会場	別府ブルーバード会館3階(別府市北浜1-2-12)
料金	無料	来場者数	180名
内容			
会期初日、参加アーティストと総合ディレクターが参加しシンポジウムを開催した。第1部「湯の町の記憶を紡ぐ、鉄輪での滞在制作」では、関連プログラム「KASHIMA 2015 BEPPU ARTIST IN RESIDENCE」プロジェクト・ディレクターと、参加アーティスト2名が、別府・鉄輪地区での滞在制作について報告。第2部「世界は不思議に満ちている」では、大分市美術館の菅 章館長をモデレーターに招き、アートゲートクルーズの参加作家をパネリストにシンポジウムを行った。			

プログラム名	カーニバルをつくろう！おどるこども温泉世界！！		
実施日	7/20(月・祝)、7/21(火)、7/22(水) 体験会 8/18(火)、8/19(水)、8/20(木)、8/21(金)、8/22(土) 練習 8/23(日) カーニバル発表会 9/27(日) カーニバル再演	会場	野口ふれあい交流センター(別府市野口元町12-43)、ポラリス児童クラブ(別府市京町11-9)、別府市南部児童館(別府市末広町1-3)、トキハ別府店(別府市北浜2-9-1)
料金	無料	参加者数	38名
内容			
子どもや「子ども心を忘れない」大人を募り、トキハ別府店を会場に「わくわくどりのカーニバル」を実施。「ベップ・秘密のナイトダンスツアー」参加アーティストであるダンサー・振付家の北村成美が振付けを担当。「わくわく混浴デパートメント」にも出展した美術家の行橋智彦が舞台衣装を担当。ワークショップ形式で参加者を募集し、ダンスの創作とオリジナルの衣装作りを行った。公演では観客約300名を盛り上がらせ、芸術祭のフィナーレでは再演を行った。			

プログラム名	劇コワ！みんなでつくる演劇お化け屋敷 in 別府		
実施日	7/25(土)、8/21(金)、8/22(土)、8/23(日)、9/6(日)	会場	不老泉 集会所 (別府市中央町7-16)
料金	無料	参加者数	14名
内容			
「永久別府劇場・恐怖の館」第3期アーティスト、「福岡恐いもの研究会」によるワークショップ。参加者の「コワイ」感覚・体験を話し合いながら演出家と共に、第3期「恐怖の館」の世界を創作した。9/11からはワークショップ参加者が、実際にお化け役として出演しアーティストだけでなく、一般参加者とともにお化け屋敷を作り上げた。			

プログラム名	アダム・チョズコ　トーク&パフォーマンス『Rising(ライジング)』		
実施日	8/6(木)	会場	冨士屋Gallery一也百(別府市鉄輪上1組)
料金	無料	来場者数	60名
内容			
「KASHIMA 2015」参加アーティストのアダム・チョズコによるトークイベント。冨士屋Gallery一也百での展覧会についてや、普段のイギリスでの活動、今後の作品の展開について発表した。また、ニューヨークで活躍する女優グレチェン・エゴフと共に、アダムがイギリスで制作した音と朗読によるパフォーマンス『Rising』を発表した。 ※関連事業「 KASHIMA2015 BEPPU ARTIST IN RESIDENCE」の一環として開催			

プログラム名	環ROY×蓮沼執太×U-zhaan　即興ライブ		
実施日	8/15(土)	会場	松原公民館(別府市松原町3−4)
料金	前売：3,000円　当日：3,500円 (中学生以上) 前売：1,500円　当日：2,000円(小学生) 未就学児無料	来場者数	87名
内容			
アートゲートクルーズ参加アーティストの蓮沼執太、ラッパーの環ROY、タブラ奏者のU-zhaanによる即興演奏ライブ。市内外から来場者が集まった。タブラのリズムとシンセサイザーの電子音にあわせて、連想ゲームのように次々と言葉が紡ぎ出される環ROYのラップが加わり来場者を魅了した。 ※関連事業「BEPPU PROJECT 2015」の一環として開催			

プログラム名	ライブ！大友良英with別府フライング・オーケストラ		
実施日	9/5(土)	会場	トキハ別府店(別府市北浜2-9-1)
料金	(一般)前売：3,500円　当日：4,000円 (小・中学生)前売：1,000円 当日：1,500円 未就学児無料	来場者数	150名
内容			
アートゲートクルーズ参加アーティストの大友良英が、市民や音楽仲間による「別府フライング・オーケストラ」とともに演奏するライブイベント。トキハ別府店の屋上と立体駐車場を使用し、観客と共に回遊し、空間と音を堪能するライブとなった。 ※関連事業「BEPPU PROJECT 2015」の一環として開催			

プログラム名	混浴温泉世界カフェトーク		
実施日	9/6(日)	会場	platform03 (別府市楠町4-8)
料金	1,500円	来場者数	25名
内容			
アートゲートクルーズ参加アーティストの大友良英と、社会学者・開沼 博によるトークイベント。「フクシマ論」の著者である開沼氏と福島県出身の大友氏によるトーク。ホストに芹沢高志を据え、別府および混浴温泉世界についての話を展開した。			

プログラム名	ベップ・アジアンダンスナイト！		
実施日	9/6(日)	会場	トキハ別府店(別府市北浜2-9-1)、別府ブルーバード会館地下(別府市北浜1-2-12)、海門寺公園(別府市北浜2-3-2)
料金	無料	来場者数	270名
内容			
国際交流基金 アジアセンターによる交流プログラムの一環で企画したダンスイベント。ベトナム、シンガポール、香港のダンサーが別府に集まり、3カ所の会場を移動しながら魅惑的なダンスを繰り広げた。前日の9/5(土)にはJR別府駅構内にて30分程度のミニパフォーマンスも開催し、一般の通行人も足をとめダンスに魅入っていた。			

プログラム名	ベップ・天空のバリナイト'BEPPU・SKY BALI NIGHT'		
実施日	9/24(木)	会場	トキハ別府店屋上(別府市北浜2-9-1)
料金	無料	来場者数	200名
内容			
国際交流基金 アジアセンターによる交流プログラムの一環で企画したイベント。バリの古典芸能を今に伝え上演する「トリ・プサカ・サクティ」舞踊団を招き、映像と影絵を融合させた古典舞踊の新作をトキハ別府店屋上で公演。温泉を舞台にした物語に加え、舞踊団が別府で描いた絵画が登場し、湯の町・別府にちなんだ親しみやすい物語で来場者を楽しませた。また、彼らが滞在中に制作したドローイングや舞台装置の一部を「わくわく混浴デパートメント」の会場内に展示した。			

プログラム名	「混浴温泉世界 2015」大！大！大！フィナーレ！！！		
実施日	9/27(日)	会場	トキハ別府店屋上(別府市北浜2-9-1)
料金	無料	来場者数	407名
内容			

72日間にわたって開催した本芸術祭のフィナーレイベント。「わくわくどりのカーニバル」の再演や芸術祭を盛り上げたダンサー、アーティストのリバイバル公演、そして「混浴温泉世界 2009」にて山中カメラが発表した「別府最適音頭」を踊る大ボンダンス大会が多くの来場者とアーティストによって繰り広げられた。その後のフィナーレセレモニーでは、芸術祭実行委員代表者らが挨拶し、集合写真撮影を行った。

以上が公式の関連イベントであるが、期間中には当初予定になかった、フリンジ企画が生まれた。「永久別府劇場・恐怖の館」を使った「おばけBar」や、「ベップ・秘密のナイトダンスツアー」をもう一度みたいという要望から「混浴おかわり劇場」など、アーティストや関係者による企画が多く生まれたのも本芸術祭の特徴である。

2-5．来場者について

会期中の総来場者数は、53,825名（当初見込み：30,000名）であった。
※当初見込みの算出は、過去の開催データ（「混浴温泉世界 2009」は92,000名、「混浴温泉世界 2012」<来場者117,348名）並びに、今回のプログラムの特徴である予約・定員制であることを考慮して算出した。
来場者数の測定は、カウンターを用い実数を測定した。

１． 来場者数

分類	名称	会場	人数 (単位=名)	備考
プログラム	アートゲートクルーズ	中心市街地	1,446	定員制・予約制・有料プログラム 85回実施（定員：15名／回） 埋席率 113%　※1
	ベップ・秘密のナイトダンスツアー	中心市街地	1,434	定員制・予約制・有料プログラム 26回実施（定員：50名／回） 埋席率 110%　※1
	永久別府劇場・恐怖の館	永久別府劇場	3,201	有料プログラム
	わくわく混浴デパートメント	トキハ別府店7階	46,362	無料プログラム
イベント	記念シンポジウム「世界は不思議に満ちている」	別府ブルーバード劇場	180	無料プログラム
	カフェトーク	platform03	25	有料プログラム
	わくわくどりのカーニバル	トキハ別府店屋上	300	無料プログラム
	ベップ・アジアンダンスナイト！	別府駅構内／中心市街地	270	無料プログラム
	ベップ・天空のバリナイト	トキハ別府店屋上	200	無料プログラム
	「混浴温泉世界 2015」大！大！大！フィナーレ！！！	トキハ別府店屋上	407	無料プログラム
合計			53,825※2	

※1　定員制のプログラムであったが、視察対応等の事由による参加枠の増加のため、100%を超えた。
※2　同時期に開催された関連企画「BEPPU PROJECT 2015」「KASHIMA 2015 BEPPU ARTIST IN RESIDENCE」およびその関連イベントは来場者数カウントに含まない。各人数のカウントについては、有料入場・無料入場（関係者・取材等）を合計した人数である。

２． 来場者アンケート集計結果

会期中、来場者に下記の質問を記したアンケートを実施した。回収枚数は 1,062 枚。
（過去回収枚数　2009 年：727 枚、2012 年：1,030 枚）。
※小数点以下の記載がないものに関しては四捨五入しています。

１．年齢、性別、居住地、滞在期間、交通手段

２．今回のイベントをどこで知ったか

３．2009 年、2012 年に開催された「混浴温泉世界」には参加したか

４．国内外で開催されるアートフェスティバルへの参加状況

５．「混浴温泉世界」と同時開催した、ベップ・アート・マンスには参加したか

６．今回のフェスティバルの評価

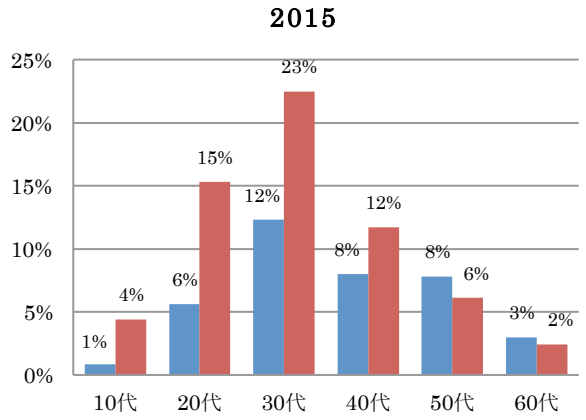
７． ６の理由

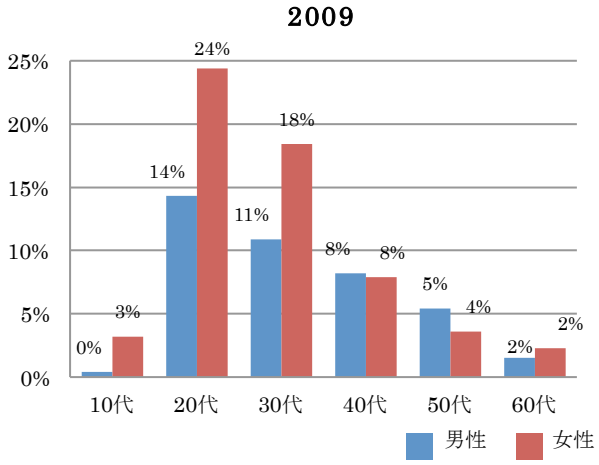
８．大分県内の他スポット、アートイベント、アートフェスティバルのうち、今回行ってみたい(もしくはこの 1 年で行った)もの

９．「混浴温泉世界」の将来のあり方についての意見

１.年齢、性別

過去２回は 20 代女性が最も多い来場者層だったのに対し、今回は 30 代女性の来場者が最も多かった。

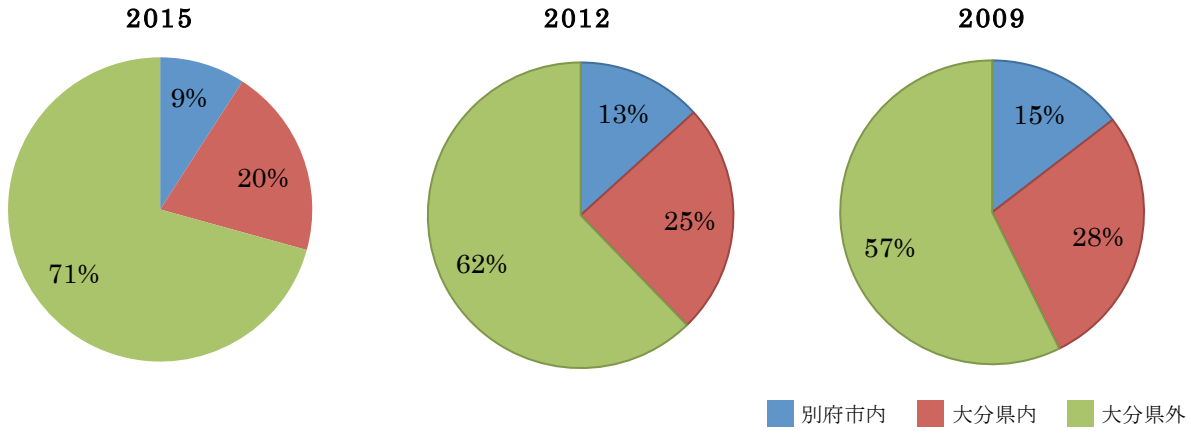




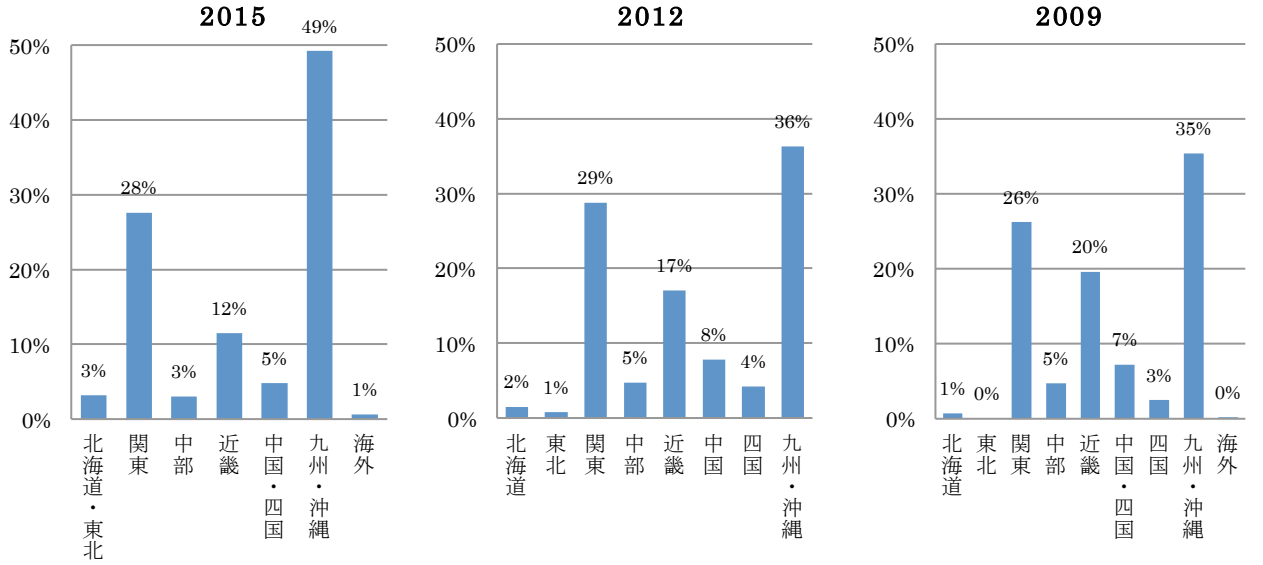
１.居住地

過去２回と同様に県外からの来場者が圧倒的に多い結果となった。前項目の、滞在期間の増加は県外からの来場者の多さと、県内で同時期に開催されたアートイベントの開催に起因すると考えられる。

県外来場者の地域別内訳を見ると、過去２回とほぼ比率は変わらないが、九州・沖縄の比率が 10％ほど増えた。

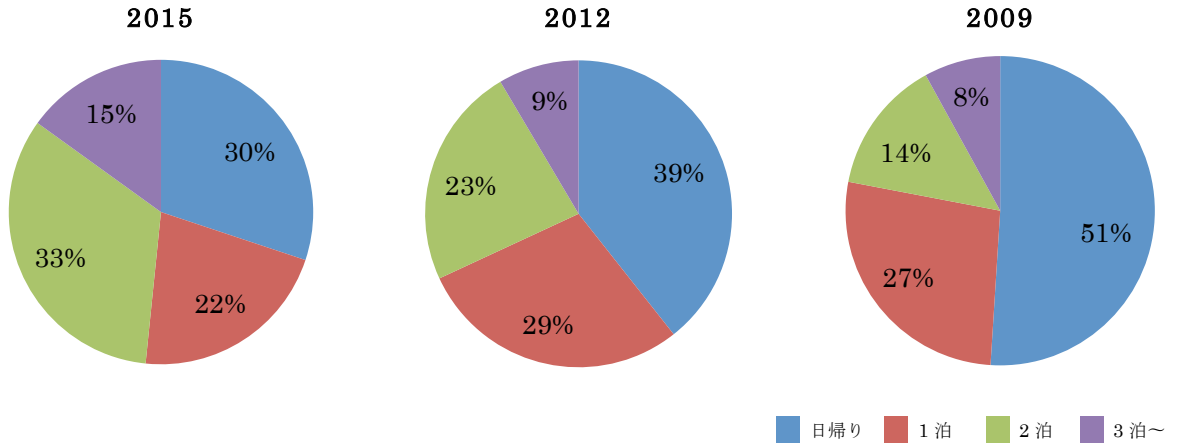


大分県外からの来場者数内訳



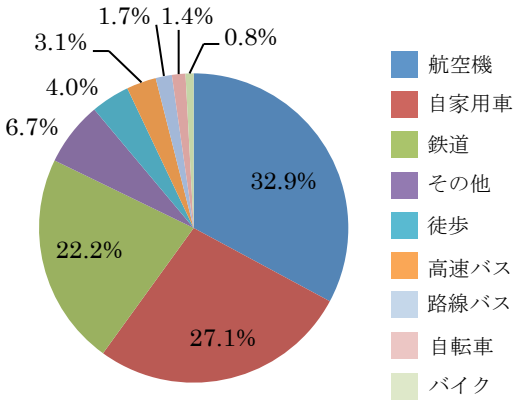
１．滞在期間

過去２回に比べて、日帰り客よりも宿泊客の割合が増えた。宿泊日数は２泊が最も多くなっている。



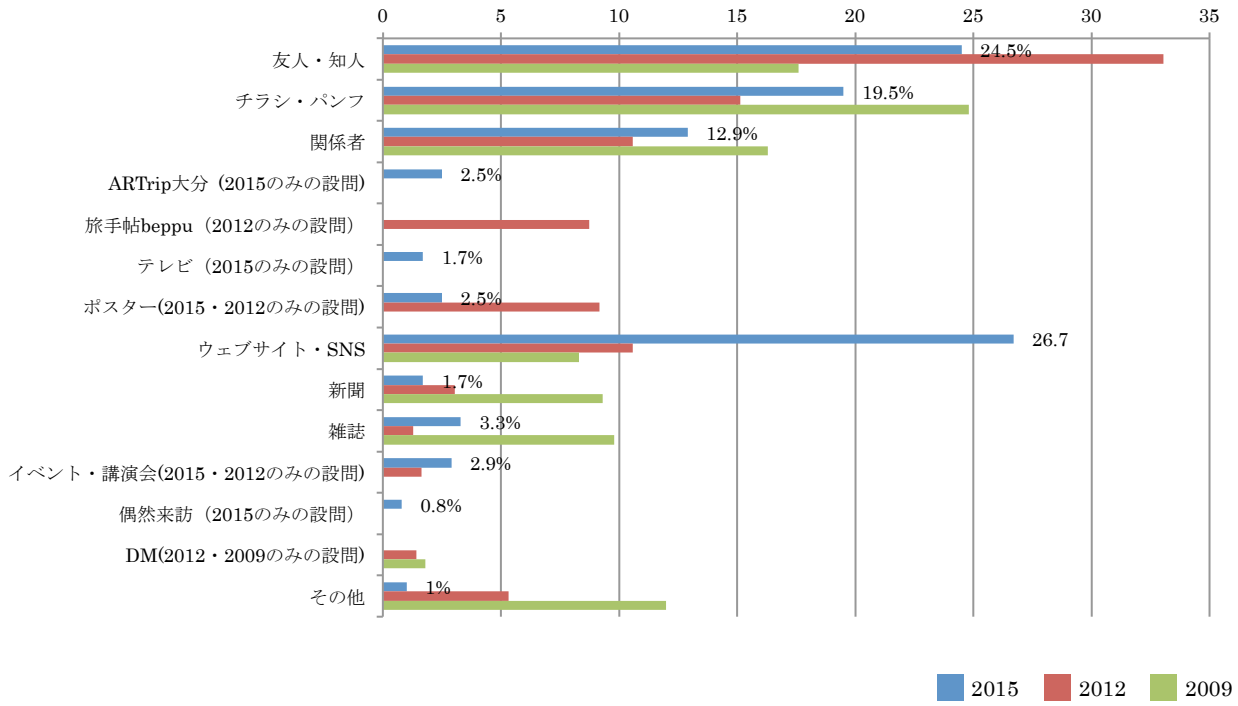
１.交通手段

航空機と鉄道は県外客、自家用車は県内客の比率と比例している。



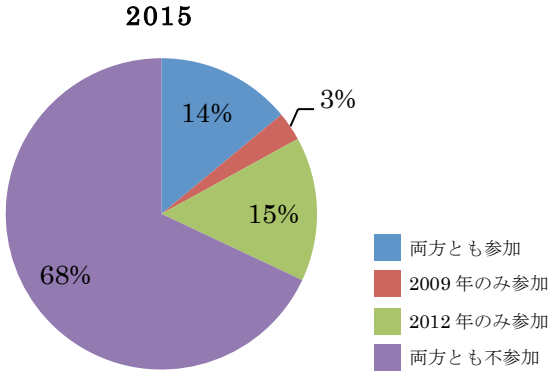
２.今回のイベントをどこで知ったか

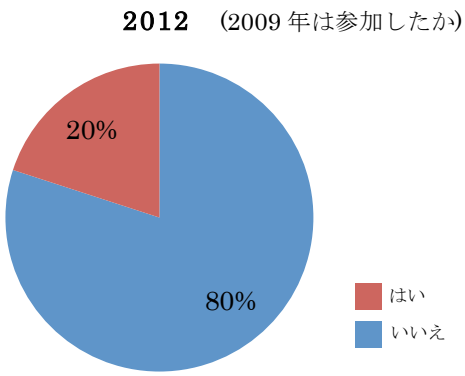
前回は友人･知人から知ったという回答が最も多かったが､今回はウェブサイト･SNS の割合が多くなっている｡2012 年開催時は約 10％であったのに対し、26％と大きな伸びをみせた。



３．2009 年、2012 年に開催された「混浴温泉世界」には参加したか

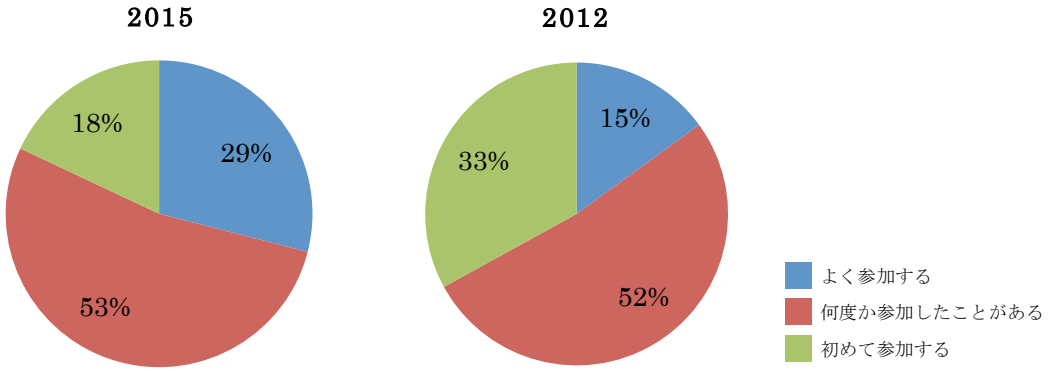
前回と比較してリピーターが 10%強増加した。





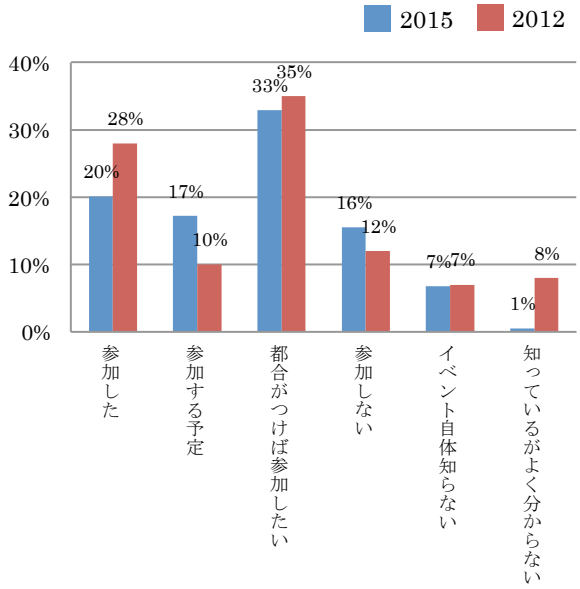
４．国内外で開催されるアートフェスティバルへの参加状況

来場者の 82%が他のアートフェスティバルに参加している。初めて参加すると答えた来場者も減少しており、全国のアートフェスティバルの増加と前項目のリピーター数の増加が関係していると思われる。



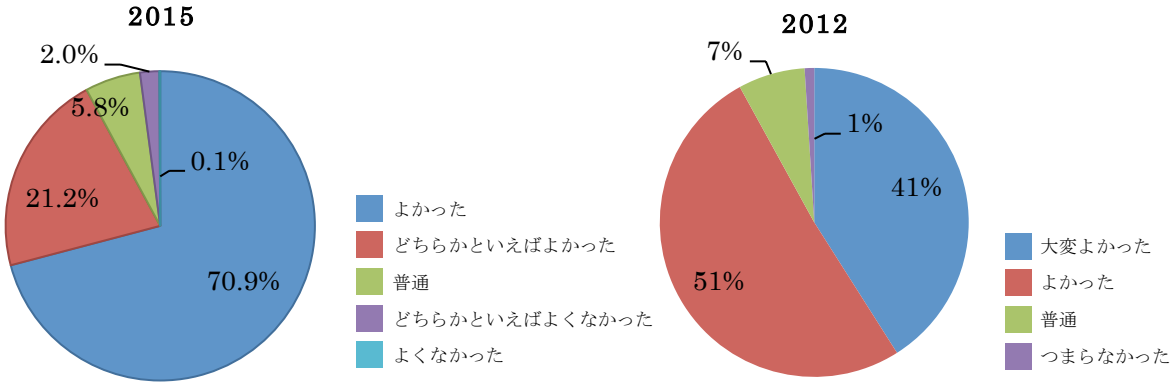
５．混浴温泉世界と同時開催した、ベップ・アート・マンスには参加したか

参加した方と参加意欲のある方の合計が 70%を超えた。前回と同様に、「混浴温泉世界」と「ベップ・アート・マンス」との情報発信がうまく連携できたためと思われる。



６．今回のフェスティバルの評価

アンケート参加者の 90%以上が、フェスティバルに対して「よかった」または、「どちらかといえばよかった」と回答した。



７．６の理由

■街に無理なく受け止められているような空気を感じた。ステキだなと思いました。アートゲートクルーズはすごく良かったです。刺激をたくさんいただきました

■設置されっぱなしの展示を勝手にみるのではなく、ダンスツアー、アートゲートクルーズなど入れないところに入り、導線ごと街ごと空間・時間を感じられたこと

■別府のまちの体を歩いてるようでした。町の鼓動がずっと聞こえてくるような、そんな感覚がずっとしてました

■ツアー制だったので作品を見る一連の流れまで作家さんの工夫などが感じられよかった

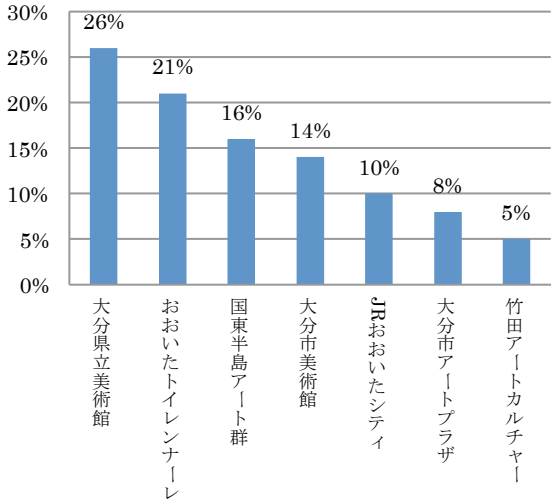
■他の国内のアートフェスにはない、「ツアー」という参加型の体験プログラムがとてもワクワクした

□別府市外から来る観光客にとっては普通のガイドと違って良いが市内の人だとツアーより違う形で見せてほしい

□今回アートゲートクルーズの予約がいっぱいで、参加することができず残念！

８．大分県内の他スポット、アートイベント、アートフェスティバルのうち、今回行ってみたい(もしくはこの１年で行った)もの

＜１．滞在期間＞が過去２回より増加したことに照らすと、これらの他スポットや催しとあわせて参加したことが１つの要因であると考えられる。



９．混浴温泉世界の将来のあり方についての意見

■混浴温泉世界だけでなく、同時期におおいたトイレンナーレなど複数実施している感じがとてもいい。大分中で同じ時期にアート・音楽イベントをワサワサとやってくれると、はるばる遠くからでも行きやすい。開催主体はひとつじゃなくてもいい。でも、それらがユルッと繋がって共通で告知していると、幅広く見えるし露出も増える。なにより参加する側も気持ちがいい

■他のフェスティバルよりも地域の人とゆっくり関わった感じがするので、その良さは残しつつ次に向けて考えていただけるといいのではと思った

■別府の町と深く結びつくようなアートの展開は是非続けてほしい

■最近のどの芸術祭も同じようになってきているので、今回のツアーのように面白い構造で組み立てていると新鮮

■どのような形でも続けてほしい

□地方から来ましたが参加型の参加枠がもっとあったら嬉しかった

□ツアー形式は良いが、ツアーの数を増やすなど気軽にできるようにしてほしい

□暑いので秋が理想的

2-6．運営について

① 鑑賞料金について

共通鑑賞券として、「混浴温泉世界 2015」の全てのプログラム、同時期開催の展覧会「BEPPU PROJECT 2015」の一部の有料プログラム「KASHIMA 2015 BEPPU ARTIST IN RESIDENCE」に無料で参加でき、大分県内関連施設(美術館・温泉施設等)に割引入場できるパスポート型のチケットを販売した。
パスポートは、各1回ずつ参加可能である「パスポート」と期間中何度でも参加可能な「プレミアムパスポート」の2種を販売した。

・共通鑑賞券の前売り、当日の個別鑑賞券の金額

		中学生以上		小学生	未就学児
		前売券	当日券		
共通鑑賞券	パスポート	￥3,500			
	プレミアムパスポート	￥20,000			
個別鑑賞券	アートゲートクルーズ	￥1,500	￥2,000	￥500	無料
	ベップ・秘密のナイトダンスツアー	￥1,500	￥2,000	￥500	無料
	永久別府劇場・恐怖の館	￥500			入場不可
	わくわく混浴デパートメント	無料			

・販売枚数

		枚数	金額
共通鑑賞券	パスポート	622枚	¥2,177,000
	プレミアムパスポート	6 枚	¥120,000
	小計	628枚	¥2,297,000
個別鑑賞券	アートゲートクルーズ	873枚	¥1,302,000
	ベップ・秘密のナイトダンスツアー	744枚	¥1,177,500
	永久別府劇場・恐怖の館	2,573枚	¥1,286,500
	わくわく混浴デパートメント		
	小計	4,190枚	¥3,766,000
合計		4,818枚	¥6,063,000

② パスポート連携特典について

パスポート型チケットの購入者は、大分県内関連施設(美術館・温泉施設等)との連携により、割引入場や特典が受けられた。連携特典は下記の通り。

大分県立美術館	「『描く！』マンガ展～名作を生む画技に迫る―描線・コマ・キャラ～」、コレクション展観覧料 → 団体割引価格で入場可
大分市美術館	特別展 「水戸岡鋭治デザインワンダーランド駅弁から ななつ星まで」 観覧料 → 前売価格で当日入場可
アートプラザ	「ART PLAZA 渡辺おさむ展 お菓子の国のアリス～フェイク・クリーム・アートの世界～」観覧料 → 前売価格で当日入場可
水族館「うみたまご」	入館料割引(団体割引価格)
海地獄	個別観覧券割引(団体割引価格)
野上本館	立ち寄り湯(大浴場) 500 円 → 無料 ※日時指定有
別府温泉ホテル白菊	立ち寄り湯 1,000 円 → 200 円 ※時間指定有
ホテルニューツルタ	立ち寄り湯 650 円 → 100 円 ※日時指定有
悠彩の宿 望海	立ち寄り湯 500 円 → 100 円 ※時間指定有
ホテル風月 HAMMOND	湯屋 夢たまて筥：ご入浴された方に温泉玉子 1 個プレゼント 里の駅かんなわ：お会計から 5%割引
サリーガーデンの宿 鉄輪 柳屋	立ち寄り湯 540 円 → 100 円 ※時間指定有
別府市営温泉 北浜温泉「テルマス」	入浴料 510 円 → 無料 ※日時指定有

③ ボランティアの状況

本芸術祭ではボランティアスタッフを2012年より温泉の管理をする番台さんになぞらい「ばんだいさん」と呼んでいる。ボランティアは延べ453名が参加した。今回の新規登録者は123名となった。過去2回の芸術祭でのボランティア登録者数はそれぞれ2009年で281名、2012年で226名であった。

参加者の居住地は16都道府県であった。県外からの参加者は49名で、これは全体の41%を占めている。過去2回と比較しても今回は2倍近くの割合となった。過去2回開催された本芸術祭の県外ボランティア人数は、2012年は12%であり、2009年は21%、これと比較しても2015年は非常に高い比率であった。

遠方からの「ばんだいさん」には、NPO法人 BEPPU PROJECTが管理している清島アパートを宿泊場所として提供。

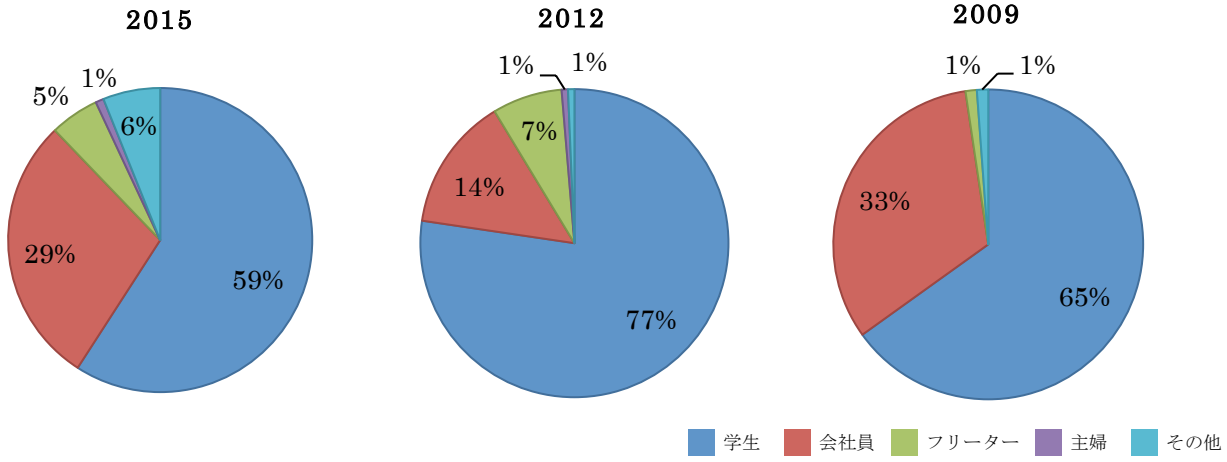
登録した「ばんだいさん」のうち約80%が女性で、全体の平均年齢は25.8歳だった。

活動内容は、作品制作補助、広報活動(広報物発送・ポスター掲示等)、受付業務・作品紹介、ダンス公演運営(交通整理・周辺周知・受付等)、事務作業と多岐にわたった。

登録者人数　県外居住者数					
2015年		2012年		2009年	
全体人数(名)	うち県外(名)	全体人数(名)	うち県外(名)	全体人数(名)	うち県外(名)
123	49 全体の41%	226	26 全体の12%	281	58 全体の21%

新規登録者居住地(名)							
北海道	1	長野	1	兵庫	1	熊本	1
東京	10	大阪	2	岡山	2	大分	74
神奈川	3	京都	1	徳島	1	鹿児島	1
千葉	2	奈良	2	福岡	20	沖縄	1

登録者の職種



第３章　開催記録２　「ベップ・アート・マンス 2015」

３-１．企画概要

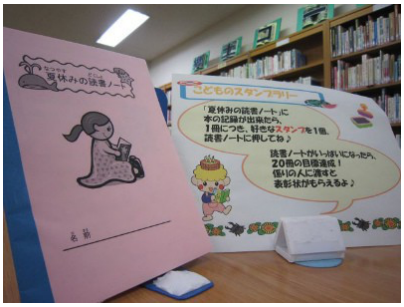
「ベップ・アート・マンス」とは、別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」実行委員会が主催者となり、11月の１ヶ月間※、別府で開催されるさまざまな文化事業を紹介し支援する、登録型のプラットフォーム事業である。2010年から毎年開催し、今年度で６回目であった。小規模文化団体の育成・支援を目的に広報協力、事務局業務代行、企画立案から実現に向けたサポートを行うことで、市民の主体的な参画を促進し、別府市における芸術文化の振興と活力あふれる地域の実現を目指す取り組みである。
※2012年度は「混浴温泉世界 2012」の開催にあわせて10月６日～12月2日の約２ヶ月間とした。また、2015年度は「混浴温泉世界 2015」の開催にあわせて7月18日～９月27日の約２ヶ月間とした。
事業の目的は、下記の4つである。

1. 別府市における文化芸術の振興
2. 別府市における文化芸術の鑑賞機会の充実
3. 様々な芸術表現の発表機会の提供
4. 別府市における集客交流人口の増加

３-２．実施団体・プログラム

71団体・個人が88のプログラムを登録し、別府市内各所で開催された。
33の会場でプログラムが展開された（うち、実行委員会提供会場７ヶ所）。ただし、開催場所を「別府市内各所」と告知したうえで不特定・複数回開催されたプログラムについては１カ所とした。

企画者	クリストファー・トラウトマン	
プログラム名	姉妹都市米国ボーモントアート展	
会期	7/6(月)-18(土)	
会場	別府市まちなか交流館	
料金	無料	
参加者数	50名	
実施内容	別府市とテキサス州ボーモントの文化交流を目的とした会がコレクションを展示。パンフレットを片手に来場する方が多かった。	

企画者	別府市立図書館	
プログラム名	こどものスタンプラリー 2015	
会期	7/7(火)-9/6(日) ※月曜定休、祝日の場合は翌日	
会場	別府市立図書館	
料金	無料	
参加者数	36,235名	
実施内容	図書館利用者が各々に「読書ノート」を作り、そこに本を読むごとにスタンプを押した。20個集まると賞状をプレゼントした。利用者のなかには読了した本の写真を貼り付けるなど、思い思いのノートが出来あがっており、図書館員も活用術に驚いた。	

企画者	別府市立図書館	
プログラム名	夏の工作	
会期	8/1(土)	
会場	サザンクロス	
料金	無料	
参加者数	18名	
実施内容	小学生を対象に、図書館の司書の指導のもとフォトスタンドのデコレーション教室が開催された。低学年が多いにも関わらず、丁寧に、静かに作っていた。	

企画者	羊毛造形 Ura.	
プログラム名	Relax～Ura.の羊毛動物たち～	
会期	7/18(土)-9/27(日)	
会場	JR別府駅北高架商店街	
料金	無料	
参加者数	2,160名	
実施内容	羊毛造形作家のUra.が、羊毛フェルトでリアルに作った動物たちを、商店街の通りやお店の中など十数か所に設置した。鑑賞者は、商店街を目当てに来る方、パンフレットを見て来る方、通りすがりの方、ツアーガイドの案内で訪れる方など、様々だった。	

企画者	鉄輪湯けむり落語会実行委員会	
プログラム名	第15回ゆけむり落語会 三遊亭歌奴と扇家和助のアートマンス寄席	
会期	7/18(土)	
会場	冨士屋Gallery一也百	
料金	3,000円	
参加者数	60名	
実施内容	明治時代の旅館建築をリノベーションしたホールの中で、大勢で寄席を楽しんだ。	

企画者	佐々木 智子	
プログラム名	「別府竹細工」って何だろう？	
会期	7/18(土)-9/27(日)	
会場	地熱観光LAB 竹工房たけいろ	
料金	鑑賞無料、ワークショップ2,000円	
参加者数	919名	
実施内容	10時から19時まで展示会場で竹細工の実演を行った。14時から17時には、希望者を対象にワークショップを開催した。パンフレットを手にたずねてくる方、インフォメーションセンターからの予約者が目立った。	

企画者	女将 白井鶴絵	
プログラム名	将棋は純日本文化(カルチャー)！！	
会期	7/18(土)-9/27(日) ※月・火曜定休	
会場	将棋処と＆おにぎりかふぇ	
料金	1,500円	
参加者数	10名	
実施内容	カフェが併設されている将棋処にて、将棋の体験教室を企画。パンフレットを見て、将棋を体験してみたいという親子が来場した。	

企画者	二宮敏泰、橋本尚美、高木 薫、森 貴也、EAT LOVE FACTORY	
プログラム名	もはや生活感溢れる宇宙。	
会期	7/18(土)-9/27(日)	
会場	スタジオ・ノクード	
料金	鑑賞無料、二宮敏泰 記憶の地図ガイドツアー2,500円、ワークショップや食事会1,500円～	
参加者数	240名	
実施内容	期間中常時開催のオープンスタジオに加えて、複数の作家による展覧会が開催された。また、まちあるきの拠点としてスタジオに人が集まった。	

企画者	別府市美術館	
プログラム名	別府市美術館常設展・特別展	
会期	7/18(土)-9/27(日) ※月曜定休・祝日の場合は翌日	
会場	別府市美術館	
料金	大人100円、小・中学生50円、小学生未満・70歳以上無料、土日は小・中学生無料	
参加者数	2,628名	
実施内容	期間中、3つの特別展示を行った。それぞれ、関連する資料や目録を配布した。	

企画者	暮らしのアートギャラリー Camin	
プログラム名	辛島早苗 彫刻展	
会期	7/18(土)-26(日)	
会場	暮らしのアートギャラリー Camin	
料金	無料	
参加者数	173名	
実施内容	4年間制作し続けてきた一人のモデルの彫刻作品を展示。	

企画者	暮らしのアートギャラリー Camin	
プログラム名	中野マーク周作 個展	
会期	7/29(水)-8/17(月)	
会場	暮らしのアートギャラリー Camin	
料金	無料	
参加者数	213名	
実施内容	怪獣やモンスターが会場に集まったという想定で陶器作品を展示。	

企画者	暮らしのアートギャラリー Camin	
プログラム名	陶と光の空間 〜北村忠裕 橋本尚美〜	
会期	9/20(日)-27(日)	
会場	暮らしのアートギャラリー Camin	
料金	無料	
参加者数	108名	
実施内容	別府の湯けむり漂う夜景を意識した焼き物を、陶器作家ふたりのコラボレーションで展示。	

企画者	別府中央市場「Gate Way Park」実行委員会	
プログラム名	暮らしのアート講座「ichiba市場的…PARTⅢ」	
会期	7/18(土)-9/26(土) 毎週土曜日	
会場	別府中央市場など	
料金	1,000円(500円のてんてくマップ付き)	
参加者数	5名	
実施内容	毎回JR別府駅をスタートし、10:00から12:30まで中心市街地に残る市場を巡る。途中では、別府のB級グルメを楽しむ。	

企画者	MOAPU	
プログラム名	熱アーツ	
会期	7/18(土)-22(水)	
会場	トキハ別府店専門店棟3階連絡通路そば	
料金	無料	
参加者数	100名	
実施内容	APU(立命館アジア太平洋大学)の美術サークルで制作された作品をデパートで展示。たまたま立ち寄った買い物客が足を止めて鑑賞していた。	

企画者	ここちカフェ むすびの	
プログラム名	遊びにおいでよ、むすびのに!!	
会期	7/19 (日)-9/27(日)	
会場	ここちカフェむすびの	
料金	プログラムにより異なる	
参加者数	295名	
実施内容	カフェ2階のギャラリースペースにて、複数の作家の展覧会やワークショップを入れ替わりで開催。鉄輪温泉を訪れる観光客や、飲食のためカフェを利用した方が多く来場した。	

企画者	ここちカフェ むすびの	
プログラム名	食について少しだけ考えませんか？	
会期	7/26(日)	
会場	ここちカフェむすびの	
料金	600円	
参加者数	10名	
実施内容	しいたけ農家、味噌醸造元、県産小麦の加工者などが集まり、大分県の食文化や、安全で愛情のこもった食を消費者に届ける生産者の想いなどについて、パネルディスカッションを展開した。	

企画者	田島 安有美	
プログラム名	広場で音楽会@別府駅	
会期	7/24(金)、9/19(土)	
会場	JR別府駅改札前	
料金	無料	
参加者数	700名	
実施内容	現役オペラ歌手による、JR別府駅構内での無料コンサート。演奏会が始まると足をとめて聞いてくれる方が多かった。ステージ前に用意した椅子には始まる前から数人が待っていた。	

企画者	万屋 水銀、赤、水色	
プログラム名	「みず」企画！「君じゃなきゃだめ」	
会期	7/24(金)-9/25(金) 毎週金曜	
会場	万屋 水銀、赤、水色	
料金	500円(材料費込)	
参加者数	20名	
実施内容	「自分」をテーマに自身について考え、だるまや横顔エンブレムの制作、オリジナルの詩を朗読し録音するなど、自分を表現する作品を制作した。	

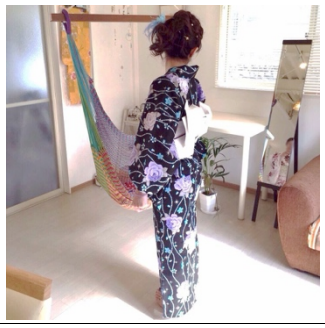
企画者	あうんともこ	
プログラム名	帯とき研究会～とかれるために結ぶ帯～	
会期	7/25(土)	
会場	紙屋公民館	
料金	無料	
参加者数	3名	
実施内容	浴衣と半幅帯で結ぶことのできる、スルスルととける帯ときを皆で研究。回るたびに極上の笑顔で「楽しい！！」との声や「帯をとかれてクルクル回るとふらふらになり、倒れ込むのは理にかなっている」という意見もあり、一同納得。ラストは、立つ、座る、静止の動作を組み合わせて、帯を解く→解かれた人は倒れる、というルールで即興ダンスを作った。	

企画者	ジョウ	
プログラム名	絵本ナイト～夏の夜の無謀な挑戦とおかえりなさいの日～	
会期	7/25(土)	
会場	風穴の２階	
料金	鑑賞無料、1ドリンク200円	
参加者数	12名	
実施内容	絵本の読み聞かせを、子どもでなく大人対象に行った。若い方から年配の方まで幅広く来場。赤ちゃん連れのご夫婦が途中で帰られてしまったのは少し残念だった。来場者は少なかったものの、会場の大きさなどを考えると充分だった。	

企画者	TOMOKO + PAULO&EMI	
プログラム名	Relaxing Time～くつろぎの時間～	
会期	7/25(土)、8/8(土)、8/22(土)	
会場	comer com saude（北尻）	
料金	2,500円	
参加者数	20名	
実施内容	海の見える一般家屋にて、じっくりとピラティスのレッスンをしたあと、ブラジル料理の食体験。	

企画者	ブルーバードシアター	
プログラム名	塚本晋也シアター	
会期	7/25(土)-9/4(金)	
会場	別府ブルーバード劇場	
料金	「野火」1,800円、「鉄男」「六月の蛇」1,000円	
参加者数	450名	
実施内容	塚本晋也監督の映画「野火」の上映。塚本晋也監督を招いてのトークイベントも開催した。映画への反響が高かったため、予定よりも上演期間を延長した。	

企画者	大分朝読書コミュニティ BunDoku	
プログラム名	BunDoku哲学カフェ(テーマ：ジェンダーについて)	
会期	7/26(日)	
会場	ここちカフェむすびの	
料金	700円(1ドリンク付)	
参加者数	15名	
実施内容	「ジェンダー」をテーマに対話をした。いつもは大分市が会場であるが、別府での初開催ということもあって、新鮮な空気のなかで進行した。	

企画者	KAGURA＊和遊～wayu～	
プログラム名	花火は浴衣で“和ガール”体験・撮影in朝見神社	
会期	7/26(日)	
会場	オリエンタルヒーリングサロンKAGURA	
料金	浴衣持参で3,000円	
参加者数	1名	
実施内容	当初は浴衣を着ての別府市朝見エリアの散策や写真撮影を行う予定だったが、台風の影響で7/29(水)に延期。当日は、着付け体験のみを行った。	

企画者	Hui o Mau oli oli o Mapuana	
プログラム名	Enjoy Hula in 別府VI	
会期	7/26(日)	
会場	北浜公園	
料金	無料	
参加者数	50名	
実施内容	北浜公園で開かれるマルシェの中でフラダンスをお披露目する企画。台風のためマルシェは中止されたが、フラダンスは催行した。初の野外ステージだった。風も強く観客も少なかったが、わざわざ見に来て下さった方もいた。	

企画者	日本文理大学 美術部	
プログラム名	日本文理大学 美術部 作品展	
会期	8/1(土)-2(日)	
会場	B-passage中央広場	
料金	無料	
参加者数	80名	
実施内容	日本文理大学 美術部による作品展。通りかかった方々が熱心にご覧になっている様子がみられた。在廊した学生と鑑賞客との対話・交流もできた。	

企画者	日本文理大学 近藤研アンド足立研	
プログラム名	ブンリ派デザイン展	
会期	8/3(月)-7(金)	
会場	B-passage中央広場	
料金	無料	
参加者数	200名	
実施内容	日本文理大学の研究室２つによる合同の展覧会。通りかかった方々が熱心にご覧になっている様子がみられた。特に関係者の来場が目立った。	

企画者	別府市 障害福祉課	
プログラム名	別府市障がい者(児)アール・ブリュットの芽ばえ展	
会期	8/1(土)-30(日)	
会場	別府市まちなか交流館、別府発達医療センター	
料金	無料	
参加者数	448名	
実施内容	初日はまちなか交流館にてオープニングセレモニーを行い、市議会議員や障がい関係団体の方が多く集まった。以後は、来場者数に伸び悩みたまにふらっとやってくる程度であった。別府発達医療センターにでは、受診に来る人が立ち寄り、作品を眺めていた。	

企画者	宮本博行	
プログラム名	円境/circle boundary	
会期	8/1(土)-9/27(日)	
会場	秋葉神社	
料金	無料	
参加者数	0名	※催行されなかったため記録写真なし
実施内容	会場を使えなくなり別会場をあたるも見つからず、企画者判断で開催を断念。	

企画者	宮本博行	
プログラム名	時音/time-sound	
会期	9/15(火)-27(日)	
会場	フタバアパート3階	
料金	無料	
参加者数	222名	
実施内容	使われなくなったアパートの１室を改装して展覧会場にした。	

企画者	木村まり、藤井秀美、浦田 健	
プログラム名	スクラップブッキング&ATCカードを作ろう	
会期	8/2(日)	
会場	明石文昭堂	
料金	500円	
参加者数	30名	
実施内容	各受付でスクラップブッキングを体験してもらった。ATCカード作りはうまくPRできていなかったので、参加者が少なかった。店頭で紹介をして参加してくれた方もいた。親子で参加した方も多く、作品作りを楽しんでいた。初めて参加した方も、また参加したいと好評だった。	

企画者	木下賢也	
プログラム名	音の地図をつくる（別府ゆけむり編）	
会期	8/2(日)	
会場	紙屋公民館	
料金	500円	
参加者数	6名	
実施内容	参加者のそれぞれの視点で音を採取し、音の地図の素材とした。今回は参加者6人のうち4人がアーティストで、それぞれの個性が出ていた。	

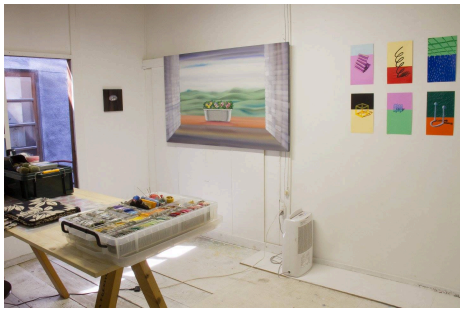
企画者	清島アパート入居クリエイター	
プログラム名	清島オープンアパート2015	
会期	7/18(土)-9/27(日)の火・水以外	
会場	清島アパート	
料金	100円、中学生以下無料	
参加者数	930名	
実施内容	清島アパート利用クリエイター8組のアトリエを公開。毎週末には週替わりのイベントを開催した。	

企画者	大平 由香理	
プログラム名	更新する絵	
会期	7/18(土)-9/27(日)の火・水以外	
会場	清島アパート	
料金	無料	
参加者数	930名	
実施内容	「きょうの1まい」として、作品を日々更新した。	

企画者	川崎泰史	
プログラム名	「自画像」展	
会期	7/18(土)-9/27(日)の火・水以外	
会場	清島アパート	
料金	無料	
参加者数	930名	
実施内容	別府に移住してから制作した作品を展示。	

企画者	関川航平	
プログラム名	岩を持ち上げられない	
会期	7/18(土)-9/27(日)の火・水以外	
会場	別府市内のどこか	
料金	無料	
参加者数	200名	
実施内容	アトリエに造作物を展示するほか、鑑賞者の協力によって作り上げられる写真展やウェブサイトを作成した。トークイベントを4回開催した。	

企画者	中野莉菜	
プログラム名	写真展	
会期	7/18(土)-9/27(日)の火・水以外	
会場	清島アパート	
料金	無料	
参加者数	930名	
実施内容	2014年11月に移住してから35mmフィルムカメラで撮影した別府の写真を展示。	

企画者	福嶋さくら	
プログラム名	福嶋さくら	
会期	7/18(土)-9/27(日)の火・水以外	
会場	清島アパート	
料金	無料	
参加者数	930名	
実施内容	別府で制作した作品のほか、新作ドローイングを展示。	

企画者	飯島剛哉	
プログラム名	なかにはいって(もちあげて)、しゅっとぬいて清島へつっこむ。	
会期	7/19(日)-9/27(日)毎週日曜日	
会場	別府市南部児童館2階	
料金	無料	
参加者数	220名	
実施内容	アトリエに造作物を展示するほか、児童館を利用する子どもに参加してもらう作品や、屋外で一般通行人に披露するパフォーマンスを継続的に展開した。	

企画者	小野 愛	
プログラム名	小野 愛個展	
会期	9/15(火)-26(土)の木・日以外	
会場	フタバアパート3階	
料金	無料	
参加者数	250名	
実施内容	使われなくなったアパートの2室を使って、布の彫刻作品や写真を展示した。公開制作やライブイベントも開催した。	

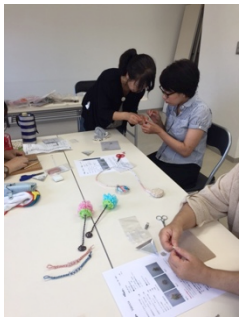
企画者	勝 正光	
プログラム名	勝 正光の画家あるき	
会期	7/19(日)-9/27(日) 毎週月・土・日・祝日	
会場	JR別府駅ベップ・アート・マンスインフォーメーションセンター集合	
料金	200円	
参加者数	30名	
実施内容	別府市に移住して7年以上経つ画家の視点から見る別府のまちを案内した。	

企画者	大分県在住漫画家	
プログラム名	漫画家原画展	
会期	8/3(月)-9(日)	
会場	紙屋公民館	
料金	無料	
参加者数	65名	
実施内容	原画展のほか、トークショーを開催した。なんとなく立ち寄った方よりも、目的を持って来た方が多かった。	

企画者	かわくぼみちこ	
プログラム名	かわくぼみちこ 大分方言`de書	
会期	8/3(月)-12(水)	
会場	蔵ギャラリーしばた	
料金	無料	
参加者数	100名	
実施内容	大分方言をテーマにした書の展覧会。企画者のふるさと別府でお世話になっている方々や友人、観光客の方々やアートマンスめぐりの方々、多くの方々の来場で大変にぎやかだった。	

企画者	鉄輪軒先マルシェ実行委員会	
プログラム名	鉄輪軒先マルシェ 歩きたくなる！大分の竹工芸家の20のおかいものカゴ展	
会期	8/5(水)-9(日)	
会場	冨士屋Gallery一也百	
料金	無料(気に入ったカゴは購入可)	
参加者数	100名	
実施内容	大分の竹工芸家が作ったカゴを貸し出し、実際に町を歩いて買い物に使ってもらった。	

企画者	炭谷 宇紀子・炭谷早紀	
プログラム名	Malta　The Sense of Wonder in Wonderland　in the Mediterranean。。。♡。..。.゜。*・。♬♪*†	
会期	8/7(金)-13(木)	
会場	トキハ別府店専門店棟3階連絡通路そば	
料金	無料	
参加者数	500名	
実施内容	来場者から葉っぱをイメージした和紙にコメントをいただき、貼るインスタレーション作品を展示。フェイクスイーツのプレゼンテーションも行った。海外、日本中から鑑賞者が訪れ、リピーターも多かった。テーマを理解し、会場で癒されたとの声も多数。会場全体がWonderの木となるインスタレーションにも喜んで参加いただいた。写真を見ただけで企画者の作品だとわかるという言葉もあった。	

企画者	BeadsArtStudio Atelier Etoile 主宰 養父 美穂子	
プログラム名	WakuWaku手作りマルシェ	
会期	8/8(土)	
会場	別府駅前クリニック2階 レンタルスペース	
料金	ワークショップ1作品800円～1,000円程度	
参加者数	5名	
実施内容	ふだんあまり触れ合うことのない「コスチュームジュエリー」の展示および制作体験会。	

企画者	BeadsArtStudio Atelier Etoile 主宰 養父 美穂子	
プログラム名	ハレの日のジュエリー	
会期	9/11(金)-19(土)	
会場	別府駅前クリニック2階 レンタルスペース	
料金	無料	
参加者数	100名	
実施内容	途切れなくまばらにご来訪があり、ゆっくりと1日が終わることもあれば、会場からあふれるほどの来訪があった日も何日かあった。比較的、来場は午前中に集中、午後からはゆっくりと接客。ジュエリーの写真展と思って入ったら、実物を見ることができるビーズジュエリーの作品展で嬉しかったという声もあった。	

企画者	ザトー	
プログラム名	SO-ZO-寄席 〜頭ん中のスクリーン〜	
(1)	8/8(土) 上田の湯公民館 500円、小学生以下200円(ドリンク付) 45名来場。来場者の約半数が地元町内の方で、多くの方に満足して頂けた。落語2席のほか、ゲストのジョウが絵本の読み語り2席(4話)を行った。	
(2)	8/22(土) 駅前町公民館 500円、小学生以下200円(ドリンク付) 30名来場。詩人豆塚エリとの２人会形式で行い、大分別府の民話や物語の語りと、トークショーを行った。地元町内の方を始め、各地から幅広い世代の方にお越し頂いた。	
(3)	9/18(金) 秋葉サロン 300円 30名来場。怪談人情話や大人に向けた落語2席と、ゲストの有木キリンによる三線演奏を行った。来場者の多くはアートマンスの冊子やチラシを見てお越し頂いた。前半は、くだけた雰囲気で笑いが多く、後半は話の内容によって程よい緊張感があった。	

企画者	snufkinsmile	
プログラム名	ある日のカレー -いただきますとごちそうさまのあいだ-	
会期	8/8(土)	
会場	スタジオ・ノクード	
料金	無料(カンパ制)	
参加者数	32名	
実施内容	休日の過ごし方や、食器の選び方といったライフスタイルの提案をした。また、石川県を中心に活動する漆食器作家たちの紹介をした。	

企画者	永藤清人	
プログラム名	作る楽しみ教えます！Part3	
会期	8/9(日)	
会場	B-passage中央広場	
料金	鑑賞無料、ワークショップ500円、ブレスレット作り1,000円	
参加者数	10名	
実施内容	木屑やビーズを使った、ものづくり教室。前回来てくれた方が今回も参加してくれた。親子連れの人がほとんどだった。	

企画者	日豊本線下り組	
プログラム名	フェチ展	
会期	8/17(月)-26(水)	
会場	蔵ギャラリーしばた	
料金	無料	
参加者数	60名	
実施内容	大分県立緑丘高校を卒業した同級生による合同展覧会。別府に着いてまず最初に訪れる方が多かった。会場が駅から近いためか、県外から来たという方が多かった。	

企画者	流川レコード	
プログラム名	琺瑯(ほうろう)看板物語	
会期	8/22(土)	
会場	風穴の２階集合	
料金	1,000円(冊子付)	
参加者数	5名	
実施内容	別府市の路地に点在する琺瑯看板をたどりながら楽しむ、まちあるきの企画。普段行かない場所や路地裏を探索し、参加者は珍しそうな様子だった。また、通りかかった住民の方からの周辺のお話やガイドを頂ける場面もあった。	

企画者	おとな美術部	
プログラム名	北浜マルシェで紙しばい！	
会期	8/23(日)	
会場	北浜公園	
料金	無料	
参加者数	30名	
実施内容	演劇的要素を加え、鑑賞者を巻き込みながら物語を進めるという方法をとる、オリジナル紙芝居の上演。パンフレットを見て参加した方が多かった。参加した子どもたちが喜んで、見る側から演じる側になってくれた。	

企画者	BAZUKURI WEDDING	
プログラム名	北浜マルシェ限定！見て、撮って楽しむ『リアルウェディングツリー』	
会期	8/23(日)、9/27(日)	
会場	北浜公園	
料金	無料	
参加者数	30名	
実施内容	北浜公園に植えられている樹木に結婚式をイメージした飾り付けをし、写真撮影スポットに変身させた。通りがかりに立ちよってくれた方、パンフレットを見て目指してきてくれた方、北浜マルシェに寄ったついでに来てくれた方が多かった。	

企画者	マカリイ - フラ・エ・ナ・メア・ハワイ	
プログラム名	ナー・メア・ハナリマ 'elua(エルア)	
会期	8/29(土)-30(日)	
会場	トキハ別府店専門店棟3階連絡通路そば	
料金	無料	
参加者数	80名	
実施内容	デパートの一角にて、ハワイアンキルトを展示。キルト制作の実演も行い、その実演の様子を熱心に見られる方もいた。最初から展示品の観覧目当てで来る方のほかに、興味を持って立ち止まられる買い物客も多かった。	

企画者	梅本美術研究所 子ども絵画教室	
プログラム名	梅本美術研究所 子ども絵画教室 作品展vol.4	
会期	第1部 9/1(火)-6(日)、第2部 9/8(火)-14(月)	
会場	トキハ別府店専門店棟3階連絡通路そば	
料金	無料	
参加者数	300名	
実施内容	幼児から高校生までの平面・立体作品を展示。	

企画者	吉森睦子	
プログラム名	思いのままのかたちを焼く	
会期	9/1(火)-10(木)	
会場	蔵ギャラリーしばた	
料金	無料	
参加者数	100名	
実施内容	自作の焼き物の展示。日常の出来事をテーマにした作品が多かったためか、共感から話がはずみ、ときにお客同士での会話が深まることもあった。今回初めて、いくつかの陶器の横に俳句や言葉を添え、それが作品を理解する手引きになったとの感想があった。	

企画者	アルベルト・ルイス	
プログラム名	HANAMI	
会期	9/3(木)-27(日)	
会場	Pure wine bar Enfer	
料金	鑑賞無料、1オーダー注文	
参加者数	0名	※催行されなかったため記録写真なし
実施内容	※企画者の都合により実施されなかった。	

企画者	オノデラマサト	
プログラム名	オノデラマサト個展@ここちカフェむすびの	
会期	9/4(金)-9(水)	
会場	ここちカフェむすびの	
料金	鑑賞無料、飲食有料	
参加者数	50名	
実施内容	カフェの2階にあるギャラリースペースで、似顔絵の展示や公開制作が行われた。	

企画者	大分大学教育福祉科学部被服学研究室／ふないまちなか大学／大分知の市場	
プログラム名	家庭科カフェ特別ワークショップ	
会期	9/5(土)	
会場	佐藤渓美術館別館2階	
料金	500円(資料・飲み物代)	
参加者数	8名	
実施内容	ブータンの生活文化を紹介。毎年、同じ会場を利用。アットホームな雰囲気だった。	

企画者	CAT + 先崎哲進	
プログラム名	別府小茶会～日常茶景事～	
会期	9/5(土)	
会場	JR別府駅東口・油屋熊八像付近	
料金	500円	
参加者数	7名	
実施内容	オリジナルの茶室の展示と、その中での供茶。会場が駅前であるのを利点に、通りすがりのお客が途切れずに参加。順調に企画が進行していたが、雨により中断(企画者判断)。1時間での撤収は悔やまれるが、短い時間でも参加者とおもしろいコミュニケーションがとれた。	

企画者	株式会社 都留紙器工業所 都留慎治	
プログラム名	貼り箱作り体験	
会期	9/5(土)、9/12(土)	
会場	株式会社 都留紙器工業所	
料金	ワークショップ1,000円、見学のみ無料	
参加者数	4名	
実施内容	工場内の機器の説明ののち、実際のラインに入って組まれた箱に紙を貼る体験。出来上がった貼り箱にリボン掛けまで行い、参加者は皆関心を深めた。	

企画者	湯本プライベートミュージアム	
プログラム名	湯本プライベートミュージアム所蔵品展	
会期	9/5(土)-6(日)	
会場	紙屋公民館	
料金	無料	
参加者数	30名	
実施内容	物々交換を経て作った造形作品の展示。和室に座布団の会場なので、のんびり見ていってくださる方が多かった。今回で3回目だが、毎年来てくださる方、初めて立ち寄ってくださった方、知人、友人などのおかげで、これまでで一番たくさんの物々交換ができた。	

企画者	海の見える丘のアトリエ	
プログラム名	消しゴムハンコ!彫って・押して♪	
会期	9/10(木)	
会場	海の見える丘のアトリエ	
料金	2,000円	
参加者数	5名	
実施内容	消しゴムを彫ってハンコを作るワークショップ。参加者は初めての体験に夢中の様子だった。ワークショップのあとは茶話会を行った。	

企画者	おか かおり	
プログラム名	ギャラリー立花温泉	
会期	9/10(木)-21(月)　※9/15、9/16休	
会場	旧立花温泉	
料金	無料	
参加者数	154名	
実施内容	使われなくなった共同浴場を使って、写真展やトークイベントを開催した。普段から交流の深い友人がよく来たが、パンフレットを持って、県外から来られる方もいた。会場の近所に住んでいる方(高齢者が多い)は、会場の旧立花温泉の利用者だった方々が多かった。近隣の人に喜ばれた。	

企画者	小笠原 洋	
プログラム名	おじぎ草のプチ・ダダ展	
会期	9/12(土)-13(日)	
会場	紙屋公民館	
料金	無料	
参加者数	60名	
実施内容	描き貯めてきたドローイング作品を中心にした個展。思ったより多くの方が来訪した。チラシを持ってやってきてくれた知らない方もたくさん来訪した。2日だけではなく、長く開催してほしかったとの意見まで頂いた。	

企画者	月齢会	
プログラム名	絶景 in 別府 その2	
会期	9/12(土)-13(日)	
会場	JR別府駅ベップ・アート・マンスインフォメーションセンター集合、 発表会：万屋 水銀、赤、水色	
料金	500円	
参加者数	12名	
実施内容	まちあるきをしながら取材をし、それをもとに詩を作成する、というワークショップ。最後に皆の前で朗読することで達成感を味わえるようにした。知人のほか、初対面の方や外国人の参加もあった。「しおり」で趣旨を伝え、参加のしるしに持ち帰ってもらった。	

企画者	小野峰靖	
プログラム名	忘失	
会期	9/15(火)-27(日)	
会場	フタバアパート2階	
料金	無料	
参加者数	250名	
実施内容	使われなくなったアパートを会場にした写真展。建物自体に興味を持つ来場者が多かった。	

企画者	ギャラリー別賓オーナー 大鶴史朗	
プログラム名	ギャラリー別賓	
会期	9/17(木)-27(日)	
会場	ギャラリー別賓	
料金	無料	
参加者数	50名	
実施内容	絵画や陶器などを展示。DMを配布した作家の関係者、ギャラリーオーナー関連の招待客、メディア関係者、地元政治家、著名人、パンフレットを持った飛び込み客が鑑賞。	

企画者	ideal Fit委員会	
プログラム名	大分県立芸術文化短期大学「ideal Fit」	
会期	9/18(金)-27(日)	
会場	将棋処と＆おにぎりかふぇ、LEFT ALONE	
料金	無料	
参加者数	215名	
実施内容	３名の短大生が、２つの会場を使って開いた作品展。「将棋処と」会場は、店の利用ついでに作品鑑賞する方が多かった。 また、パンフレットを見て訪れる方もいた。Ideal Fitまたはベップ・アート・マンスのことを知っていて訪れる方が多かった。「LEFT ALONE」会場は、散歩ついでにふらりと立ち寄る、といった方もいた。トークイベントは学生の参加が多く、定員30人に近い人数が集まり熱気に溢れた。	

企画者	Making Things	
プログラム名	続　旅する靴、神戸から。	
会期	9/19(土)-23(水)	
会場	ここちカフェむすびの	
料金	無料	
参加者数	50名	
実施内容	作家による神戸靴の展示。参加者は、試着の他、靴職人だから伝えたい靴と体の関係性や靴についての知識を聞いて、関心を深めた。	

企画者	イツミドリ	
プログラム名	ふたり展－ふたりでのぞいたおおいた－	
会期	9/20(日)-21(月・祝)	
会場	茶房たかさき	
料金	無料	
参加者数	43名	
実施内容	大分県に住む女性２名による写真の展覧会。喫茶で注文をして、待ち時間に観る方が多いように感じた。パンフレットを見て訪ねてくる方もいた。喫茶の建物の台所で、パン教室をしていたので、パン教室の先生や生徒も観てくれた。	

企画者	おくべ鍼灸院、台湾・中国茶専門店 三国志	
プログラム名	東洋医学×台湾茶・中国茶　健康と癒しの茶芸	
会期	9/24(木)	
会場	ここちカフェむすびの	
料金	3,500円	
参加者数	3名	
実施内容	東洋医学の専門家1名と、台湾・中国茶の専門家2名が講師となり、お茶と健康の関係やお茶にまつわる伝統文化の紹介、茶芸の披露をした。	

企画者	橋本次郎(ZEIT)	
プログラム名	サウンド・インスタレーション「 長 覚 寺 」	
会期	9/25(金)-27(日)	
会場	長覚寺	
料金	無料	
参加者数	50名	
実施内容	別府市内でフィールドレコーディングした音を組み合わせた音声作品を、寺の堂内で鑑賞する企画。会期3日間共に開始時から来場があり、その後もほぼ空き時間の無い状況だった。皆熱心に作品に耳を傾けていた。他県から来られた方や、現地に住む方には作品から聴こえてくる音をきっかけに、別府の町やその歴史、ご自身の生い立ちまで、さまざまな話をされていく方が多くいた。ただ作品を鑑賞して頂くだけの場ではなく、別府の町について考え、語り合う場になっていた。企画者にとっても今回の作品を通して別府の町を少し知る事ができた。	

企画者	福岡インディペンデント映画祭実行委員会	
プログラム名	インディペンデント映画祭 in別府 vol.4	
会期	9/27(日)	
会場	別府ブルーバード会館3階	
料金	1セクション800円、1日フリーパス1,500円	
参加者数	30名　※高校生以下無料、学生半額(学生証提示)	
実施内容	多くのイベントの最終日と重なったこともあり、やはり集客には苦労した。とはいえご来場頂けた方の満足度は高かったようで、「もったいない！」とのお言葉を多くかけて頂いた。	

3-3．来場者について

来場者数

来場者数は、53,474名を数えた。事業開始以降の来場者数の推移は以下のとおり。

ベップ・アート・マンス 2010	3,930名	
ベップ・アート・マンス 2011	11,751名	
ベップ・アート・マンス 2012	53,736名	(混浴温泉世界 2012にあわせて、約２ヶ月間の会期)
ベップ・アート・マンス 2013	25,147名	
ベップ・アート・マンス 2014	22,134名	

アンケート結果

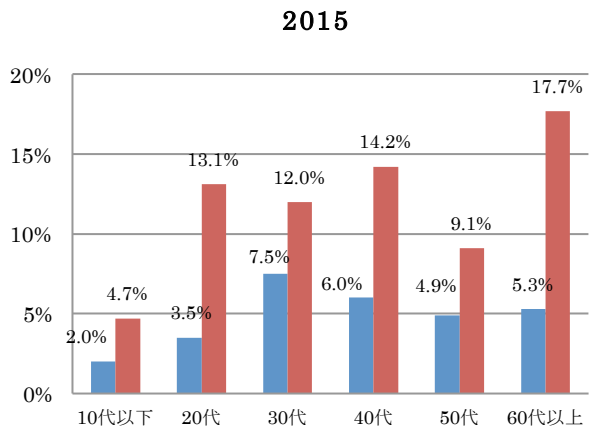
会期中、来場者へアンケートを実施した。回収枚数は513枚。今年と同じく「混浴温泉世界」が同時開催された年である2012年の回答も掲載する。

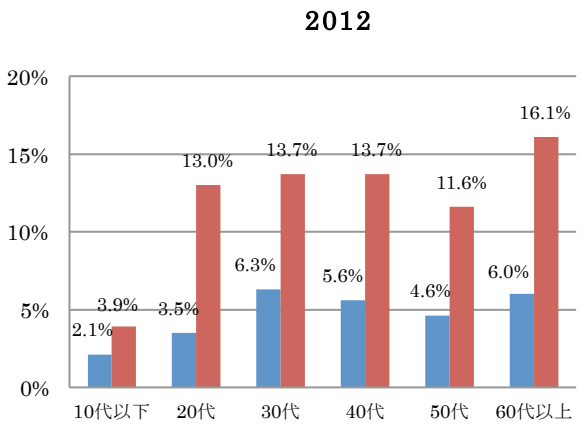
※小数点以下の記載のないものに関しては四捨五入しています。

1. 年齢、性別、滞在期間、居住地
2. 今回のプログラムのことをどこで知ったか(複数回答可)
3. ベップ・アート・マンスのことを知っていたか
4. ベップ・アート・マンスのことをいつから知っていたか
5. ベップ・アート・マンスにこれまで参加したことがあるか
6. ベップ・アート・マンスのことを何で知ったか(複数回答可)
7. 参加した、または参加する予定のプログラムはあるか
8. 2009年、2012年に開催された「混浴温泉世界」には参加したか
9. ベップ・アート・マンスという取組みへの評価
10. 次回はプログラムの企画者として参加したいと思うか

１．年齢、性別

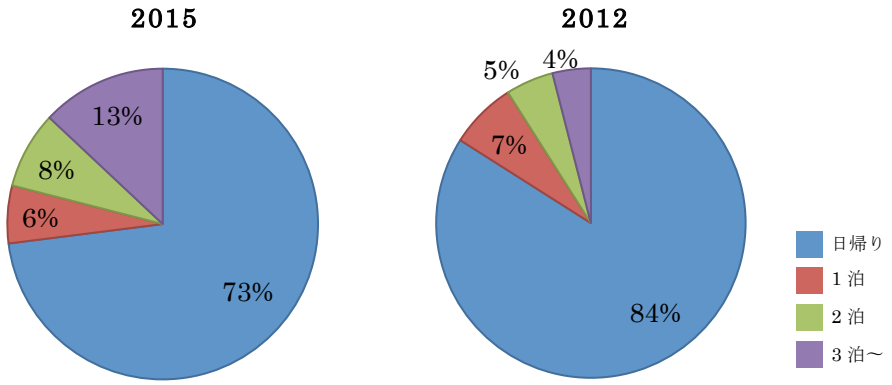
2012年と比べ、年代比、男女比ともに大きな違いは見られない。





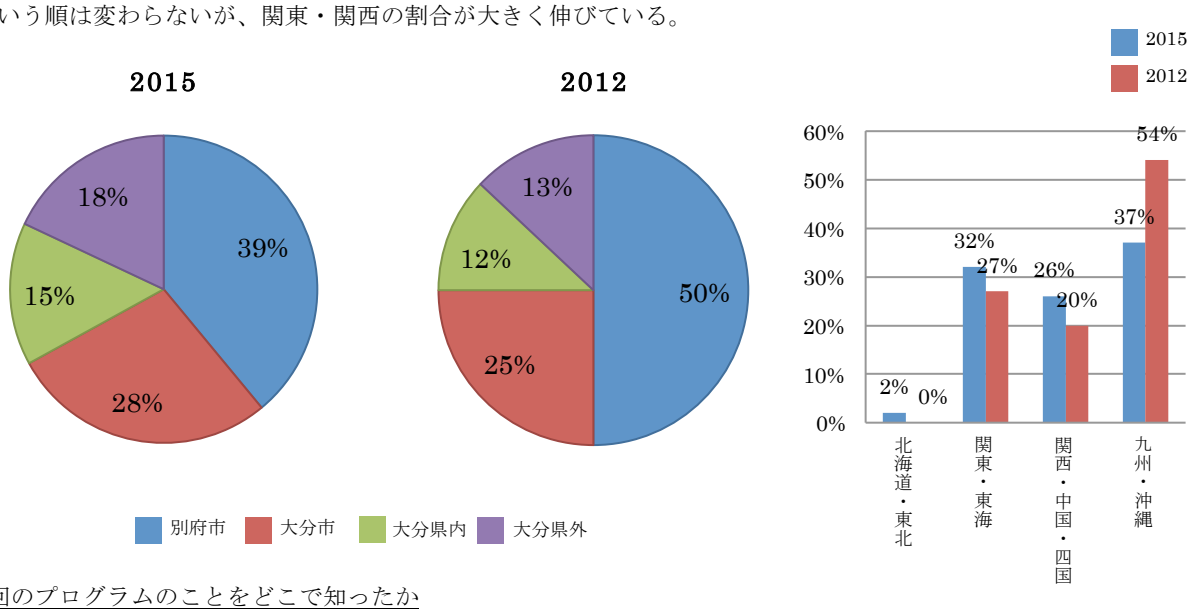
1．滞在期間

日帰り客の割合が減少した。2012 年と比較すると、３泊以上の割合の増加が目立つ。



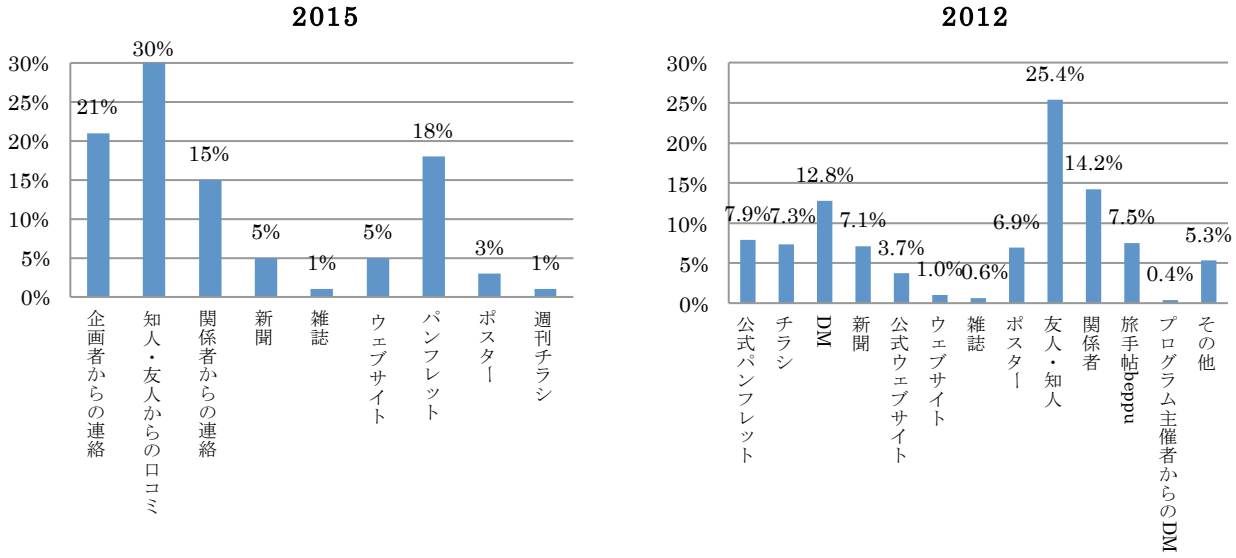
1．居住地

2012 年と同様に、別府市内に暮らす人よりも、市外からの来場者が多い。県外来場者の地域別内訳を見ると、九州、関東、関西という順は変わらないが、関東・関西の割合が大きく伸びている。



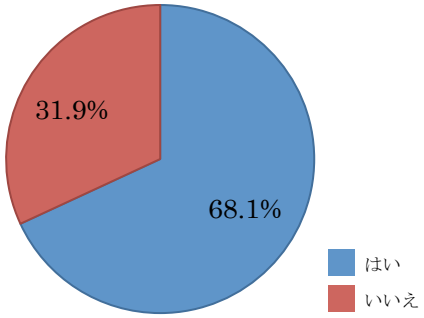
2．今回のプログラムのことをどこで知ったか

企画者や友人・知人など、身近な人からの情報伝達が強くはたらいていることは、2012年と変わりない。今後事務局は、媒体による個別のプログラムの周知に工夫を加え、既存の関係性の無い人々に足を運んでもらえる方法を具体的にする必要があるだろう。



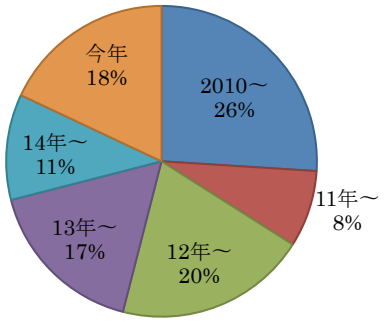
3. ベップ・アート・マンスのことを知っていたか

３割強の来場者はベップ・アート・マンスについて知らずに参加していた。



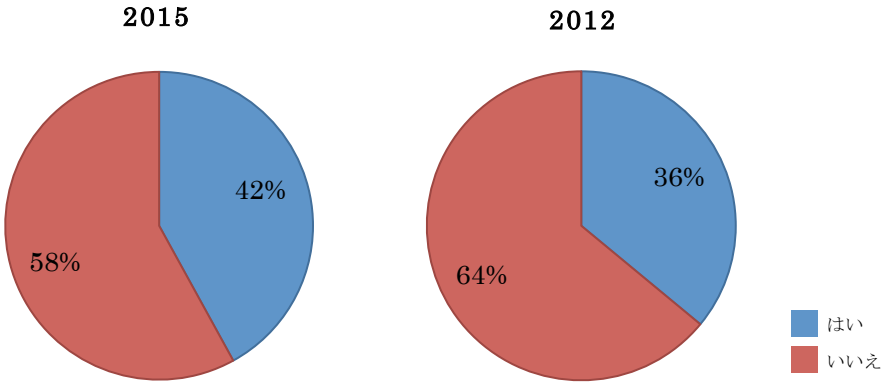
4. ベップ・アート・マンスのことをいつから知っていたか

ベップ・アート・マンスという取組み全体を認知している人が、
開催のたびに増えている。



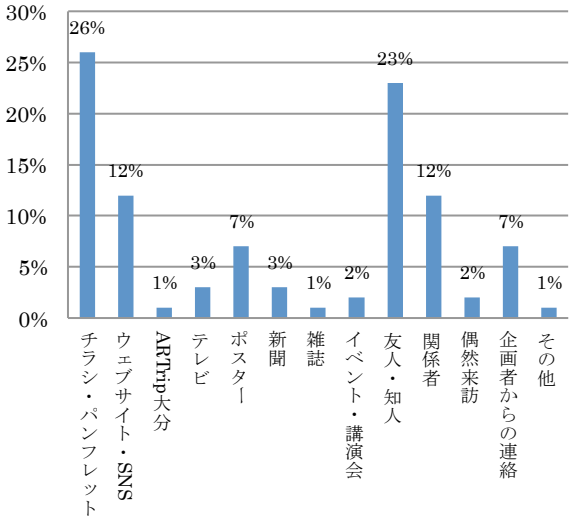
5．ベップ・アート・マンスにこれまで参加したことがあるか

2012年に比べて割合は減少しているが、半数以上が初めて参加したことが読み取れる。



6．ベップ・アート・マンスのことを何で知ったか

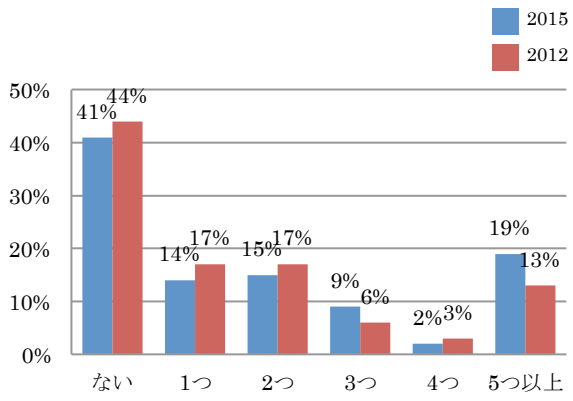
チラシ・パンフレットやポスターといった、実行委員会が発行する刊行物によって事業のことを知った客は、全体の３割を超える。また、企画者や知人等、人からの情報伝達は４割を超え、大きな力を持っている。



７．今回参加したプログラムの他に、すでに参加した、または参加しようと思っているプログラムはあるか

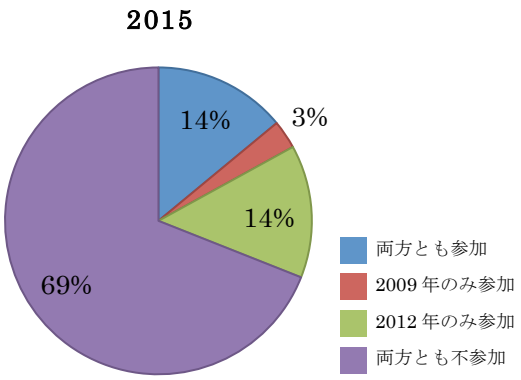
「ない」と回答した人が僅かであるが減り、会期内に５つ以上のプログラムを楽しむ人の割合が19%と高くなっている。

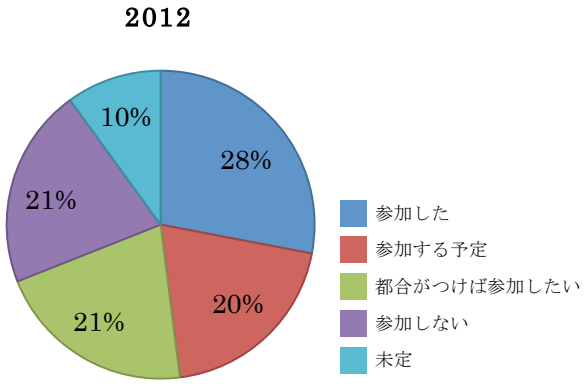
事務局は、会期の前後にも企画者どうしの交流の機会をさらに増やし、相互のプログラムを来場者に紹介するよう促す必要がある。また、企画者の準備段階の活動を記事にするなど、来場予定者に対する情報の可視化が望まれる。



８．2009年、2012年に開催された「混浴温泉世界」には参加したか

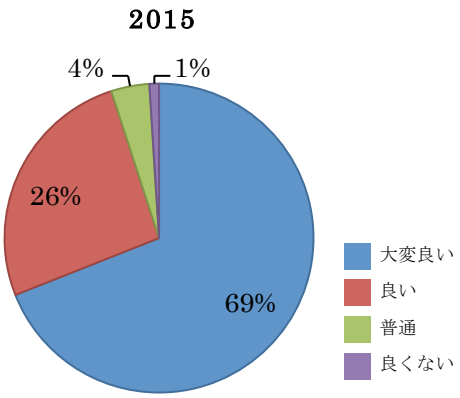
両方不参加と回答した７割弱の層が、アートの裾野を広くするベップ・アート・マンスと今後別府で開催されるアートプロジェクトとで相互に行き交うように発展させたい。

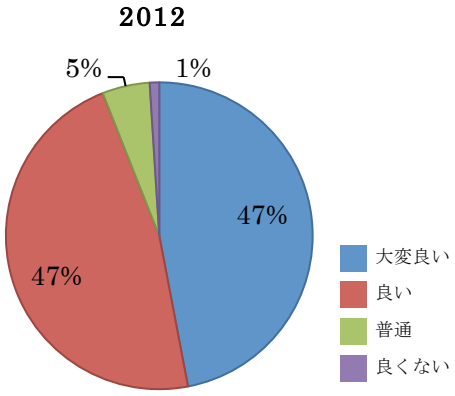




９．ベップ・アート・マンスという取組みへの評価

別府市内で開催されるさまざまな文化のイベントを集めて一堂に紹介・支援する事業として、ベップ・アート・マンスは高い評価を受け、今後の期待もされている。

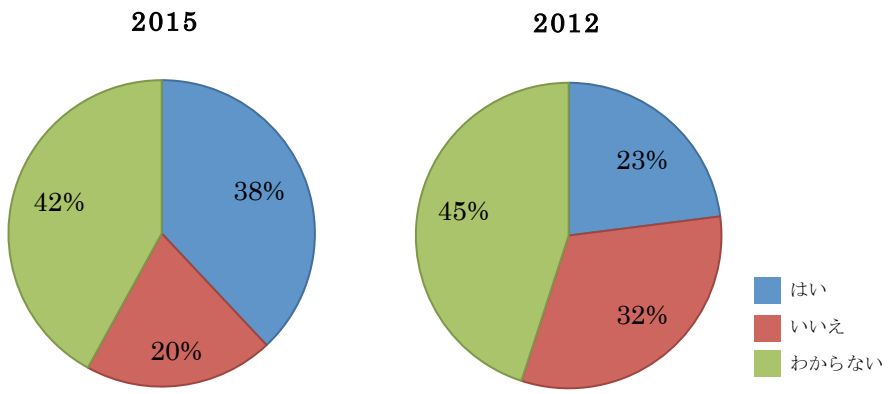




・街にアートがあふれてコミュニケーションが増え気持ちが豊かになると思う
・別府の魅力が全国に伝わる、広まるきっかけになると思うから
・アート・マンスなくして別府なし、と思うぐらい楽しんでおります
・見る側、作る側共にメリットが多くなるよい機会なので
・イベントを通して別府で活躍している人達の取り組みを知ることができる
・もっと大分をもりあげてほしい！！
・もっと芸術に興味がでるような企画をふやしてほしい
・作者の意図がつかめないものが多いと感じる
・良いのですが、地元の方に浸透していないのかなあ
・ネットSNSでの告知をもっと広めたらいいと思います

10. 次回はプログラムの企画者として参加したいと思うか

2012年と比べ、「はい」と回答した人が1.6倍以上に増えており、主体的に参加する意向が高まっているようだ。



３-４．運営について

１．サポート内容

「ベップ・アート・マンス 2015」に登録をしたプログラム企画者に対し、事務局より以下のサポートを行った。

企画立案・運営に関するアドバイス

企画の組立て時点からのアドバイスが必要な場合は、その実現性を多方面から企画者と一緒になって検討した。また、プログラムの開催直前までブラッシュアップに協力した。

無料およびディスカウント料金で使用できる会場(提供会場)の紹介

８カ所が、実行委員会が企画者に紹介する会場として用意された。

- 無料で使用できる会場…茶房たかさき(朝見地区)、長覚寺(浜脇地区)、トキハ別府店専門店棟3階連絡通路そば(中心市街地)、トキハ別府店　１F大屋根の下(中心市街地)
- ディスカウントで使用できる会場…紙屋公民館(千代町)、別府ブルーバード会館3階フレックスホール(中心市街地)、B-passage中央広場(中心市街地)、platform03 ぷらさん(楠町)

ただし、実際にはトキハ別府店 1階大屋根の下を使用したプログラムは開催されなかった。

広報業務の一部代行

- 全プログラムが掲載されたパンフレット(30,000部)や事業全体を告知するポスター(500部)を作成し、別府市内や近郊を中心に全国へ配布した。
- ウェブサイトで、個別のプログラムの情報提供や予約受付を行った。
- SNS(Twitter、Facebook)を通じた情報発信を行った。
- 記者発表を主催し、企画者が記者に対し直接告知できる機会を作った。

プログラムチケットの販売

インフォメーションセンターにて、有料プログラムのチケット販売を手数料無しで行った。ただし今回は、委託が発生しなかった。

問合せ受付・連絡先窓口などの事務局業務

企画者が希望する場合、プログラムの予約受付や問合せ対応を事務局が代行した。予約は電話、FAX、ウェブサイト、インフォメーションセンターにて受け付けた。

インフォメーションセンター

JR別府駅構内に有人のインフォメーションセンターを設け、事業のPRや問合せ対応をした。

週刊チラシの発行

パンフレットとは別に、１週間分の予定を掲載したチラシ『ベップ・アートなんす』を作り、主に中心市街地に配布した（A3両面モノクロ／全9号／計5,000部）。また、ウェブサイトよりダウンロード可能にした。パンフレットやウェブサイトでは網羅しきれなかった各企画の魅力を、手書きで掲載した。2013年に引き続き3度目の取り組みで、2014年より市民ボランティアに紙面作成を託している。

週刊チラシ 紙面

２．サポートへの評価

プログラム終了後、企画者へアンケートを実施した。回収枚数は55枚。

質問	回答
これまでにプログラム登録したことがあるか	はい…62%　いいえ…38%
ベップ・アート・マンスという取組みへの評価	大変良い…88 %　良い…11 %　普通…2%
ベップ・アート・マンスへ登録して良かったか	大変良い…75%　良い…21 %　普通…4%
またベップ・アート・マンスへ登録したいか	はい…95 %　いいえ…5 %
事務局の対応に対する評価	大変良い…67 %　良い…26 %　普通…3%　良くない…4%
広報業務の一部代行による効果があったか	はい…95 %　いいえ…5 %
問合せ対応やチケット販売窓口代行に効果があったか	はい…71 %　いいえ…24 %
他の企画者のプログラムに参加したか	はい…62%　いいえ…38 %
「ベップ・アート・マンスをつくろう会」に参加したか	はい…46 %　いいえ…54 %

・会場の減免は大変助かります！
・自分たちで一から会場を探そうとすると大変だと思ったため利用した
・街にアートがあふれてコミュニケーションが増え気持ちが豊かになると思う
・地域の公民館の利用が高まるといいと思う
・遠方からの参加の為、自身で探す事は困難ですが、提供会場から作品に最適なところを見つける事が出来ました
・偶然の組み合わせ。まちと作家のお見合い
・色々な文化は知らなければそれまで。古いもの新しいものどんどん発信してほしいです

３．加盟店

2013年度より始めた取り組み。プログラム実施会場に近い小売店・小規模飲食店を中心に、本事業に賛同してくださる店舗を「ベップ・アート・マンス 2015加盟店」とし、パンフレットやウェブサイトで紹介した。加盟店には、店頭用のサインを配布し掲示していただいた。2015年は41店舗の加盟があった。

パンフレットに店舗の情報を掲載し、アートとまちを一緒に楽しめるようにした。

ウェブサイトでも店舗情報を掲載した。

加盟店の店先にはミニポスターを掲示していただいた。

3-5．「ベップ・アート・マンス 2015」意見交換会の開催

市民によるより主体的な運営をめざし、プログラム企画者を中心に、ボランティアや地域の方などを交え、事業についての意見交換、企画者同士の交流を図る「ベップ・アート・マンスをつくろう会」を開催した。
2012年度の３月27日に第１回を開催し、本年度中に第54回までが実施された。事務局が日時・場所を決定し、任意参加行事として企画者によびかける。場所の提供や司会進行は事務局が行なった。

意見交換会の効果
事務局と企画者とが対話する頻度が増えたことで、よりきめ細やかなサポートが可能になった。また、企画者どうしが会期の半年以上前から長期的・継続的に交流を持つことで、ベップ・アート・マンスの会期以外にも、文化・芸術活動に関する情報交換をする姿が見られるようになった。

回	日程	参加人数	会場情報など
43	2015/04/15(木)	10	事務局(BEPPU PROJECT事務所内)
44	2015/04/25(土)	9	JR別府駅北高架商店街 Slowly Market
45	2015/05/15(金)	5	事務局(BEPPU PROJECT事務所内)
46	2015/05/25(月)	7	事務局(BEPPU PROJECT事務所内)
47	2015/06/05(金)	3	事務局(BEPPU PROJECT事務所内)
48	2015/06/15(月)	2	事務局(BEPPU PROJECT事務所内)
49	2015/06/25(木)	3	事務局(BEPPU PROJECT事務所内)
50	2015/07/05(日)	8	風穴の２階　※大分合同新聞の取材あり
51	2015/07/15(水)	3	ベップ・アート・マンス 2015展示会場(トキハ別府店ほか)
52	2015/08/06(木)	10	ベップ・アート・マンス 2015展示会場(冨士屋gallery一也百)
53	2015/09/06(日)	1	ベップ・アート・マンス 2015展示会場(JR別府駅北高架商店街、蔵ギャラリーしばた、紙屋温泉)
54	2015/10/17(土)	19	platform03　※報告会を兼ねての開催

「ベップ・アート・マンスをつくろう会」の様子

４－１．広報活動と開催効果

１．メディア掲載実績ならびに広告換算

2015年4月1日以降、新聞・テレビ・ラジオ・ウェブなどのメディアで、合計554回の掲載・放送があった。その結果を広告換算すると359,215,558円となった。なお、海外メディアへの掲載分は広告換算されていないので、下記には反映されていない。

「混浴温泉世界 2009」の広告換算費は2,869,870,935円(うち日曜美術館の特集関連が2,445,297,660円)、「混浴温泉世界 2012」は465,798,279円であり、2015年の広告換算は2012年と比べると、106,582,721円下回った。

メディア媒体件数を「混浴温泉世界 2012」と比較すると、特に全国の件数が約8倍に増えたことがわかる。

メディア媒体件数(2015年4月～10月)

（混浴温泉世界 2015／混浴温泉世界 2012）

	海外	全国	地方(大分含む)	媒体合計
新聞	2／0	5／1	106／90	113／91
テレビ	—	3／1	12／28	15／29
ラジオ	—	3／0	2／14	5／14
雑誌	—	38／9	8／6	46／15
ウェブ	7／7	368／43	—	375／50
エリア合計	9／7	417／54	128／138	554／199

※県内で取り上げられたニュースなども含める。また、掲載・放送実績が確認できているもののみ集計。

※掲載媒体件数、放送・掲載数は、「混浴温泉世界 2015」と「ベップ・アート・マンス 2015」を合算した数字。

広告換算内訳

メディア	掲載・放送	換算金額
新聞	113	¥120,896,546
テレビ・ラジオ	20	¥181,441,365
雑誌	46	¥38,645,100
ウェブ	375	¥18,232,547
合計	554	¥359,215,558

(集計：株式会社ジャパン通信社)

主な掲載・放送先実績(順不同)

※新聞・雑誌は出版社名ではなく、新聞・雑誌名で記載

新聞	朝日新聞、毎日新聞、産經新聞、西日本新聞、大分合同新聞、今日新聞、公明新聞、旅行新聞、THE JAPAN TIMES、陽光導光
テレビ	NHK(E テレ)、NHK 大分、日経映像、NHK 福岡、テレビ高知 KUTV、関西 TV、山口放送、OAB 大分朝日放送、TOS テレビ大分、OBS 大分放送、CTB メディア
ラジオ	KBC、エフエムおおいた、OBS ラジオ、JFN
雑誌	VOGUE、ローカルメディア 3、GINZA、月刊神戸っ子「KOBECCO」、美術の窓、Discover Japan、はれ予報、美術屋百兵衛、MI CLUB、FIGARO、wa、旅の手帖、シティ情報おおいた、プリーズ、ポス、ノジュール、モグモグ、OZ、福岡 WALKER、月刊アートコレクターズ、九州「じゃらん」、pen、旅行読売、Men's Ex、シティ情報ふくおか、ミルクジャポン、芸術新潮、月刊とまと、ビューティークラブ会報誌アデカ、美術手帖、SODA、AERA、Numero TOKYO、POPEYE、Discover Oita、大分の旅、ジパング倶楽部、DAIDOUGEI、Jetstar、Danza、SWITCH、男の隠れ家、Web Designing、月刊ソトコト
ウェブ	2015 年上期大分県観光情報、47NEWS、ActiBook、AIT、All About、allinone　美容・健康ニュース、Antenna、アーキクルー、Art & Breakfast Internatioal Vol.2、ART BASE 88、Art Center Ongoing の現在、Art Chiyoda 3331、Art CUBE、artier、artscape、asian cultural council、Baby-Q、BEPPU ACTIVITY 100、BIGLOBE 旅行、Blouin Artinfo、capture、career JET、Ceron.net、CHIBIGUTS、CHUNICHI Web、CINRA.NET、生活支援型文化施設コンカリーニョ、Daily News Online、DANCE CUBE -チャコット web magazine-、Discover Oita 大分交通エアライナー・高速道路バスロードマガジン、dot.、Ecolog Footprint、enoco、Evensi、excite 台湾、e ぶらあぼ、FASHION HEADLINE、fashionsnap.com、feel、Feel on、Find Travel、flickriver、FM Oita、Fujisan.co.jp、fukuoka underground clips、girlscafe、GO FOR FUTURE OFFICE、Google ブックス、goo ニュース、Guardian Garden、Heyevent.com、Higher Frequency、HIS、honeyee.com、iMacroshit.com、Infoseek 楽天 NEWS、i なび おおいた、JADOCZZ、JCDN news、JCtell 最新中国ニュース日本語、JDN、JR おでかけネット、JR 西日本、JTB 総合研究所、KEN KISHITA、Kotaku、KYODO HOUSE -Art of Living、Kyodo News、Ladys Toics、Linkis、livedoor news、LUKE GEORGE、madaneFIGARO.jp、mama!milk official portfolio、Mapion ニュース、mixi ニュース、MuDA、MURATA TASOGARE 30、MY LOHAS　Love your life.、NAOSHIMA NOTE、NEWS for Travel、note、OAB 大分朝日放送、OCN アート artgene、OHAZ88、OKMusic、open career +、otomoyoshihide.com、P3 art and environment、Photo Miyazaki 宮崎観光写真、piQ、Projectart.jp_β、PUNTO PRECOG、qBiz 西日本新聞経済電子版、REALTOKYO、RELEASE、Review Web、rima news、Rittor Music Magazine Web、ROCK WITH YOU｜J-WAVE 81.3 FM RADIO、Roundtown、Ryohei Minami、Ryota Kuwakubo、Smaral、sounds good、SPICE、spotclip、suzuki-hiroshi.com、T-SITE、tab、The Japan Times、THE TOMBO Oita's English Newsletter、TOKYO ARTBEAT、TOS テレビ大分、travel.watch、VOGUE LIFESTYLE、VORDERMAGAZI、Walkerplus 大分、website.informer.com、WEB 観光政策フォーラム、Wherevent、white-screen.com、WILD NAVI、world eventer brings you all the events worldwide!、Yahoo!JAPAN「ロコ」、Yahoo!ニュース、YASUHIDE KUNIMOTO｜国本泰英、YOMIURI ONLINE、youtube、YUMA TOMIYASU、ZAQ おでかけガイド、ZEIT、アートエリア B1、アートコレクターズ、アート系トーク番組 artier、アイマグブログ―yummy dance / 得居 幸、アサヒ・アート・フェスティバル、アナバナ、イベントバンク API サービス、岩手日報、うみたまご、エキサイト ニュース、演劇◎定点カメラ、大分経済新聞、大分県、大分合同新聞、おおいた情報エンジン、おおいたトイレンナーレ 2015、おおいた文化情報エンジン、大阪大学　CSCD、おおたい情報文化エンジン、大平由香理、おんせん県おおいた、かごしま文化情報センター、関東学園大学、グノシー、国際交流基金、ジモトのココロ×那須塩原、じゃらん net、ショートトラックラジオ、ジョルダンニュース、制作日記、ソーシャルニュースサイト、タナカ ヤスアキ Official Site、旅ぐるたび、チラシミュージアム、デート通、天神サイト、トランスシティ、トレたび、なにわのコリオグラファーしげやん・北村成美、西日本新聞、日本旅行、のぞみ新幹線ナビ NEWS、バイラルジャパン、はっけん TV、はてなブックマーク、美術出版社、ひながた、ファッション通信、ペーパースカイ、ぼらのたねっと、マガジンハウス　コロカルニュース、まぐまぐニュース！、まちこみ ZAQ、みち旅、みなとタクシーグループ、ミルクジャポン、めじろぐ、ゆ～わくワイド、ゆこゆこ、るるぶ.com-観光･旅行情報･宿泊予約、ロスホコス、わくわくとんぼビデオ、横山彰乃 web site、街フェス・オン・サンデー、株式会社リクルート「じゃらん net」観光ガイド、

	観光ガイド-ゆこゆこネット-、岩を持ち上げられない、銀座レトロギャラリーMUSEE、九観どっとねっと、見っけ！このはな 2015、五味伸之の日記、幸田千依 KODA CHIE WEB SITE、今日新聞、産経ニュース、篠崎理一郎、勝 正光 KATSU, Masamitsu、情報科学芸術大学院大学、千住フライングオーケストラ、前橋で文化をたのしむ人のための施設利用応援サイト「igoo」、創造都市ネットワーク日本、大分県観光情報公式サイト、大分県民芸術文化祭、知恵の処方 - Public Rhythm、地域創造、朝日新聞デジタル、長井江里奈、東北芸術工科大学、湯道 YUDO、特定非営利活動法人 大分県芸術文化振興会議、日本のニュース、日本の観光案内まとめサイト、日本の歩き方、日曜美術館、美術屋百兵衛、福岡恐いもの研究会、文化庁 平成 27 年度文化芸術創造都市推進事業 、別府亀の井ホテル、別府市中心市街地活性化協議会、蓮沼執太	Shuta Hasunuma

2. 広報について

今回のフェスティバルでの主な情報発信媒体は以下の通り。「おおいたトイレンナーレ 2015」や国東半島アート体験など、混浴温泉世界と同時に楽しめる大分県内の他のアートイベントと連携した情報発信を行った。

媒体	役割	発行部数、アクセス数など
ARTrip 大分	混浴温泉世界と合わせて楽しめる大分県内のアートイベントやアートスポットを紹介するガイドブック。	発行部数：15,000 部 配付箇所：全国 205 箇所
公式ウェブサイト	当事業全般の情報を発信する公式ウェブサイト。 英語のインフォメーションを設け、英語での情報発信も行った。	期間：4 月 20 日–11 月 24 日現在 ユーザー数：63,308 ページビュー数：295,023 アクセス元の国：82 カ国
Facebook	イベント情報や、来場者などとのコミュニケーション、公式情報以外の町の状況や作品の制作状況などを発信。	期間：「混浴温泉世界 2012」より現在まで継続。「いいね」数：3,132 4 月 1 日以降の新規「いいね」数：1,283 件 アクセス元の国／地域：33 カ国
Twitter	イベントの最新情報を発信。	期間：「混浴温泉世界 2012」より現在まで継続。 ツイート数：108 フォロワー数：2,498 4 月 1 日以降の新規フォロワー数：601

４-２．観光消費額

「混浴温泉世界 2015」ならびに「ベップ・アート・マンス 2015」の観光消費額 は319,848,439円となった。
１人当たりの消費額は下記のように想定した。

１泊２日	宿泊費 7,000 円+交通費 2,000 円+飲食費 5,000 円+イベント参加費 3,000 円+お土産代 3,000 円=20,000 円
２泊３日	宿泊費 14,000 円+交通費 2,000 円+飲食費 10,000 円+イベント参加費 3,000 円+お土産代 3,000 円=32,000 円
３泊４日	宿泊費 21,000 円+交通費 2,000 円+飲食費 15,000 円+イベント参加費 3,000 円+お土産代 3,000 円=44,000 円
日帰り	交通費 500 円+飲食代 2,000 円+イベント参加費 3,000 円+お土産代 2,000 円=7,500 円

なお、外国人観光客は全体の１％以下のため、本項では除外した。
また、別府市 ONSEN ツーリズム部観光まちづくり課が作成した「平成 26 年観光動態要覧」に掲載されている１人当たりの消費額〈宿泊客：27,163 円、日帰り客：5,815 円〉を基に算出すると、2015 年は 469,873,947 円、2012 年は 428,850,001 円となった。

		客数（名）		１名当たりの消費額	小計	合計
「混浴温泉世界 2015」（A）	宿泊客	１泊２日	1,060	20,000	¥21,200,000	¥114,729,500
		２泊３日	1,590	32,000	¥50,880,000	
		３泊４日	723	44,000	¥31,812,000	
		計	3,373		¥103,892,000	
	日帰り客		1,445	7,500	¥10,837,500	
「ベップ・アート・マンス 2015」（B）	宿泊客	１泊	1,146	20,000	¥22,920,000	¥285,581,500
		２泊	1,528	32,000	¥48,896,000	
		３泊	2,482	44,000	¥109,208,000	
		計	5,156		¥181,024,000	
	日帰り客		13,941	7,500	¥104,557,500	
A ＋ B						¥400,311,000
重複の控除(C)						¥80,462,511
観光消費額（A+B）- C						¥319,848,489

【客数の算出方法】(1)「混浴温泉世界 2015」総入場者 53,825 名のうち共通鑑賞券（パスポート・プレミアムパスポート）を購入して作品鑑賞をした方と、個別鑑賞券を購入して作品鑑賞された方を合わせて、4,818 名とする。なお「わくわく混浴デパートメント」のみを鑑賞した参加者はカウントしていない 。**(2)** 宿泊／日帰りについては、p26 の ＜滞在期間＞の結果をもとに算出(日数不明 7%は除く)。4,818×70%＝3,373 名、4,818×30%＝1,445 名。また、宿泊日数の結果から泊数ごとの客数を算出。**(3)**「ベップ・アート・マンス 2015」１名あたりの平均参加プログラム数は 2.8 プログラムとなる。そのため、対象者は「ベップ・アート・マンス 2015」参加者総数に対して、53,474 名/2.8＝19,097 名とする。**(4)**入場者アンケートにより、宿泊／日帰りの比率を算出。19,097 名×27%＝5,156 名。19,097 名×73%＝13,941 名。また、宿泊日数の結果から泊数ごとの客数を算出。
【重複】「混浴温泉世界 2015」と「ベップ・アート・マンス 2015」を同時に鑑賞した方々が一定数いることで重複した観光消費額を控除する。混浴温泉世界アンケート結果をベースに「ベップ・アート・マンスに参加した」という回答者が20.1%であったため観光消費合計から重複分として控除する。

第５章　収支状況

収支としては、79,006,204 円の収入に対して、78,936,849 円の支出となり、69,355 円の黒字となった。

（2016 年 3 月 25 日現在）

１　収入

負担金	大分県	¥44,230,000※
	別府市	¥5,000,000
	国際交流基金(アジアセンター)	¥16,378,638
	実行委員会参画団体	¥450,000
	NPO 法人 BEPPU PROJECT	¥2,000,000
	小計	¥68,058,638
助成金		¥800,000
協賛金		¥2,920,000
チケット販売		¥6,063,000
他収入		¥1,164,566
計		¥79,006,204

※内、国庫補助金(文化庁平成 27 年度文化芸術による地域活性化・国際発信事業)＝34,230,000 円／大分県負担金 10,000,000 円

２　支出

混浴温泉世界	¥43,410,489
ベップ・アート・マンス	¥1,953,800
事務局運営費	¥25,033,322
記録費	¥590,400
広報費	¥7,948,838
計	¥78,936,849

３　収支差額

収入	¥79,006,204
収支	¥78,936,849
収支差額	¥69,355

６-１．事業評価の手法について

当事業報告書でここまで示した各種データを踏まえて、「混浴温泉世界（混浴）2015」および「ベップ・アート・マンス（BAM）2015」の事業評価を行う。

2012 年の混浴、BAM の事業評価に際しては、バランス・スコアカード（Balanced Scorecard、以下 BSC）という手法を用いた。BSC は、ロバート・S・キャプランとデビッド・P・ノートンが考案した企業の業績評価・経営管理システムである。民間企業の業績評価では伝統的に、損益財政という「財務の視点」が重視されていたのに対して、キャプラン＆ノートンは、この「財務の視点」に加えて「顧客の視点」「業務プロセスの視点」「成長と学習の視点」もあわせて総合的に業績評価を行うことが重要だと説いた。そして、組織の業績を総合的に見るこうした手法は、利益追求を目的としない公的組織の経営や評価にも役立つのではないかとの考え方から、内外の自治体や公的機関でも検討・導入がなされた経緯がある。

BSC では、4 つの視点ごとに事前に目標値を設定し、事後にその達成状況の業績測定（Performance Measurement）を行う。その際、定量的な目標値として業績評価指標（Key Performance Indicator＝KPI）が設定される。これらの目標値については、過去の実績を踏まえたうえで適切な数値が設定される。但し、こうした BSC の考え方は、評価対象となる組織・事業の構造が安定的・連続的に変化することを前提としている。例えば「この指標については、前回実績の何％増で目標値を設定しよう」といったかたちである。しかしながら、混浴 2015 は、予約制・定員制を原則とするツアー方式の導入という、前回の混浴 2012 と全く異なる事業構造を採用しており、事前に適切な目標値を設定することが困難であった。

このため、今回の混浴で事前に示した目標値は「集客目標 3 万人（BAM 含めて 6 万人）」にとどまり、当初から前回混浴の「集客目標 10 万人（BAM 含めて 11.7 万人）」を下回る設定となっている。この集客目標については大幅な超過達成を行うことができたが、混浴＆BAM 2015 のもたらした成果を総合的に判断するには、来場者数のみに着目した評価ではミスリーディングである。このため、事前の目標設定はないものの、前回の混浴＆BAM 2012 の評価と同様に、BSC の考え方に基づく事業評価を行うこととしたい。

なお、混浴＆BAM 2015 の評価に際しては、「財務」「顧客」「業務プロセス」「成長と学習」からなる BSC の 4 視点を、より実態に合わせて「財政」「ステークホルダー」「マネジメント」「創造と学習」と読み換え、さらに 5 番目の視点として「地方創生の視点」を冒頭に導入した。この構成は前回の評価と同じ組み立てであり、それぞれの視点の意味合いについては、各視点の評価を行う際に説明する。

６-２．事業評価について

以下では、創造と学習の視点の評価を皮切りに、マネジメント、ステークホルダー、財政の視点を順次概観したうえで、最終目的である地方創生の視点の評価を行うこととする。

キーワード	業務評価指標	2015 年実績	参考：2012 年実績※1
地域再生の視点：別府における諸課題の解決	BAM 来場者数	のべ 53,474 名	のべ 53,736 名
	BAM プログラムの質	満足度 来場者 95% ※2 実施者 99%	満足度 来場者 94% 実施者 99%
	混浴来場者数	のべ 53,825 名	のべ 117,348 名
	混浴プログラムの質	満足度 92% ※2	満足度 92%
	宿泊者の平均滞在日数 （混浴来場者）	1.91 泊／名	1.61 泊／名
財政の視点：財政基盤の確立	チケット販売枚数	共通鑑賞券　628 枚 個別鑑賞券　4,190 枚 計　4,818 枚	共通鑑賞券　7,676 枚 個別鑑賞券　2,963 枚 計　10,639 枚
	協賛金・各種助成金の額・件数	32 件／74,000 千円 （拠出金含まず）	32 件／69,364 千円 （拠出金含まず）
ステークホールダーの視点：「観光地型・文化創造都市」プラットフォームの造成	ボランティア参加人数	のべ 453 名	のべ 660 名
	混浴開催時の 他地域連携自治体数	3 市町村	2 市町村
マネジメントの視点：実行体制の確立・強化	事務局業務の質	事務局への満足度 93%	事務局への満足度 82%
創造と学習の視点：文化芸術の持つ創造性の寄与	BAM 参加団体／プログラム数	70 団体・個人／87 企画	122 団体・個人／148 企画

※1　混浴 2012 と 2015 は事業構造が異なるため、2012 の実績はあくまで参考値として掲載している。
※2　2012 年実績と同じベースで比較するために、回答不明を除く回答者を分母としている。

（１）創造と学習の視点

創造と学習の視点は、BAM のプログラム実施者となった市民らが、文化芸術に関わる自らの創造性をいかに高めることができたかを見るものである。こうした学習を通じて、彼らが地域における他の諸課題に対しても創造的な解決を行っていくことが期待される。このように創造と学習の視点は、すぐれて未来志向、成長志向の視点といえる。

BAM は、より多くの市民が参加しやすい仕組みをつくることを最大の目標としていた。すなわち、市民がアートの鑑賞者に止まらず文化芸術活動の表現者・担い手の一員として参画することを通じて、自らの創造性を発揮・拡張させることが目指されている。

BAM2015 への参加団体・個人数、プログラム数は、70 団体・個人／87 企画となった。BAM は例年 11 月に 1 ヶ月間開催しているが、混浴が開催される 2012、2015 年には混浴と会期を揃えて約 2 ヶ月間開催される。今回の結果は、2012 年の 122 団体・個人／148 企画にこそ及ばなかったが、その後の経過をみると 2013 年 74 団体・個人／86 企画、2014 年 72 団体・個人／81 企画と安定して推移しており、2010 年から毎年事業を実施してきた結果、継続的に参加するパートナーが地域に育ってきたといえよう。

2013 年からは、市民による主体的な運営を目指し、プログラム企画者を中心にボランティア、地域の方々なども集まった意見交換、企画者同士の交流の場として「ベップ・アート・マンスをつくろう会」(以下「つくろう会」)もスタートしている。「つくろう会」の活動を通じて、事務局と企画者が対話する頻度が増え、よりきめ細やかなサポートが可能になるとともに、企画者同士が長期的・継続的に交流を持つことで、BAM 会期以外にも文化芸術活動に関して情報交換を行う姿がみられるようになった。

市民文化祭を企図した BAM だけではなく、今回は混浴のアートプロジェクトでも市民参加が多くみられた。前回の混浴は、アーティストが大型の作品を市内各地に展開するプロジェクトが中心であり、一部のダンス・パフォーマンスを除けば市民参加の余地は限られていた。これに対して今回は「わくわく混浴デパートメント」を中心に、別府市民、大分県民が表現者として参加する場面が多かった。「恐怖の館」でも、夏休みを中心に地元の子どもたちがお化け役としてボランティア参加する姿がみられたが、アーティストの予想以上に希望者が集まり、集まった子ども全員がお化け役になることができなかった。こうしたとき、余った子どもたちは自分らでできる活動を自発的に考えたという。「恐怖の館」が大勢の人出でにぎわう中、地元住民が意外と訪れていないことに気づいた彼らは、まちなかを回って商店街の人たちに「お化け屋敷に来てください」と呼びかけを行ったという。

（2）マネジメントの視点

マネジメントの視点、ステークホルダーの視点は、主に事業の実施プロセスを評価するもので、事業実施のあり方に現在進行形でメスを入れていくことになる。

このうち、マネジメントの視点では、当実行委員会による実行体制の確立強化を目指し、事務局業務が効率的・効果的に遂行されていたか否かの評価を行う。当該業務の質について、BAM 2015 のプログラム実施者へのアンケートの集計結果を見ると、事務局業務に対する満足度（「大変良い」＋「良い」との回答の構成比）は 93％となり、2012 年の 82％を上回った。

また、混浴の事務局体制については、前回は各アートプロジェクトの管理運営を事務局スタッフがほぼ丸抱えで行っていた。この体制には、事務局が個々のプロジェクトの詳細まで把握できるメリットがある一方で、個別業務の運営に手を取られ全体的な企画・調整に割く工数が削られる、会期前後に集中的に事務局に人手が必要になるといったデメリットがあった。このため、今回の混浴では、各プロジェクトの管理運営を各分野のディレクターやアーティストに大きく委ねるとともに、事務局スタッフはそれら全体を企画・調整しサポートを行うとの役割分担を図った。

さらに、前回混浴が会期中無休であったのに対して、今回は休日を設け、火・水曜日は原則として「わくわく混浴デパートメント」のみの営業とした。来場者の利便性にはある程度影響したものの、休日をスタッフの疲労回復や作品のメンテナンスにあてることができ、安心安全を旨とした芸術祭運営の点で有効であったと考える。

実行委員会の体制については、役割分担を明確化することで円滑な運営を図るべく、実行委員会の下に部会を設けて検討を重ねてきた。特に企画部会では、予約制・定員制ツアーという総合プロデューサー、総合ディレクターからの提案に対して、芸術祭の意義や、円滑な運営の方策などについて多面的に議論を行ったうえで、実行委員会での検討、承認へとつなげた。

（3）ステークホルダーの視点

創造と学習の視点では BAM プログラム実施者を中心とした別府市民、大分県民の関わり方、マネジメントの視点では主催者である実行委員会の内部体制が問われたが、混浴＆BAM の同時開催に際しては、他にも数多くのステークホルダー（関係者）の協力を得る必要がある。

ステークホルダーとしてまず念頭に置くべきは「顧客」＝芸術祭への来場者である。来場者アンケートを見るに、混浴＆BAM に対する満足度は高く、予約制・定員制を原則とするツアー方式を採用した今回の混浴には一定の評価が得られた。アートゲートクルーズ、ナイトダンスツアーに対して、市街地のなかなか入れない／入らない場所に立ち入ることで、別府の町全体の魅力を体感することができたとの意見が多く寄せられた。

その一方で、ウェブによる予約が煩雑であるとの意見もあった。特に、前売りでパスポートを購入した地元顧客には、

前売り券を買ったうえでなおかつ予約が必要という今回のシステムは分かりにくかったように思う。また、会期後半にはツアーが完売となり、可能な限り増便を行ったものの、全てのプログラムには参加できなかったという来場者も多く出たことは反省点である。

以上は、BSC でいう「顧客の視点」からの評価であるが、別府において「観光地型・文化芸術創造都市」のプラットフォームを形成するためには、顧客以外にも多様なステークホルダーとの協力体制を確立することが不可欠である。

まず、混浴の実施をサポートするボランティア「ばんだいさん」はステークホルダーの一角として大変重要である。今回はのべ 453 人のボランティアが参加した。プログラム実施者である市民が自らプログラムを実行する BAM が、少数のボランティアで足りる事業構造となっているのに対し、市内各所で招聘アーティストによる多彩なアートプロジェクトを同時展開する混浴にはボランティア動員が必要となる。総合インフォメーションセンター（JR 別府駅構内）や、各会場の受付業務、事務局業務サポートが主な業務であるが、前回混浴が市内 8 会場での受付業務に人手を取られた。それに対して今回はプロジェクト数が 4 つと少なく、その中でもアートゲートクルーズのガイド役は特徴的であった。自らが来場者をツアーに誘い、その中で自らの言葉で町や作品の魅力を語っていく。彼らガイド役がお客さんに語る言葉は一人ひとり異なっており、単なる定型業務ではなく、各々が自らの創造性を発揮する場となった。

また、混浴＆BAM 2015 の会期は、JR グループが全国から大分県への誘客を図る「おんせん県おおいたデスティネーションキャンペーン」の期間と重なっており、別府市に限らず県内各地でアートプロジェクトが展開した。県内の自治体では、2014 年秋に開催された「国東半島芸術祭」の作品が残されている国東市、豊後高田市、トイレを舞台とする芸術祭「おおいたトイレンナーレ 2015」が開催された大分市の 3 自治体と連携を図った。特にトイレンナーレについては、双方のチラシ、パンフレットで互いの芸術祭を紹介しあうとともに、東京での記者発表を共同で行うなど、一体的に情報発信を行った。自治体以外との連携についても、大分県立美術館（OPAM）、大分市美術館、アートプラザなどの公立文化施設、水族館「うみたまご」や別府市内の温泉施設などと連携し、混浴パスポート提示による割引特典を設けた。さらに、事務局を務める NPO 法人 BEPPU PROJECT が、大分県の創造県発信事業の委託を受けて発行した冊子「ARTrip 大分」は、別府、大分、国東半島、竹田、日田、湯布院を中心とする県内アート情報を取りまとめ、県全域がアートで活性化している現状を全国に発信していった。

混浴の来場者アンケートによれば、「県内の他スポット、アートイベントなどのうち今回行ってみたい（もしくはこの 1 年で行った）もの」との質問に対して、「行ってみたい／みた」と答えた先が、OPAM 26%、トイレンナーレ 21%、国東半島アート群 16%、大分市美術館 14%となっており、別府市域を越えたアートの広域連携につながったことが分かる。

（4）財政の視点

民間の企業経営に用いる BSC では、財政の視点において損益・財政面の評価などを行う。民間企業の場合、利益や良好な財務体質の確保は極めて重要な目標である。但し、企業の財務諸表は過去の損益・財政状況を示すものに過ぎず、足元の利益に過度に囚われて、マネジメント（内部プロセス）、ステークホルダー（顧客）の視点に係る現在の改善活動や、創造と学習の視点からの未来に向けた人材育成投資を怠ると、中長期的にはむしろ利益を損なう懸念もある。このため、BSC に基づく戦略的経営では、これらの諸視点に係る指標をバランスよく見ながら、企業を上手に経営していくことが求められるが、それでも最終的に重要視されるのは、中長期的な利益の最大化という財政の視点である。

これに対して、当事業のような地方創生プロジェクトでは、主催者が儲けることが一義的な目的ではなく、地域に対するさまざまな外部効果（創造的人材の育成・誘致、まちなかのにぎわい創出、経済波及効果など、主催者に限らず地域全体が享受する効果）が最終目的となる。このため、混浴＆BAM の BSC では、最終的な目的として、後述するような地方創生の視点を別立てしている。

以上のような背景から、財政の視点では、チケットの販売枚数、協賛金・各種助成金の額・件数を見る。

チケットの販売枚数については 4,818 枚であったが、2012 年（10,639 枚）とは事業構造や価格設定が異なるため、単純な比較はできない。有料企画であるアートゲートクルーズ、ナイトダンスツアーが会期後半には予約で完売となり、恐怖の館も土日祝日を中心に 3 時間待ちが続いたことを踏まえれば、今回の販売実績はおおむねキャパシティいっぱい

であったと考えられる。なお、混浴 2015 の共通鑑賞券は個別鑑賞券と比べて前回ほど有利でなかったこと（他の文化施設などとの連携特典の有無程度)、会期中に内容が変わる一部プロジェクトに複数回参加する来場者がいたこと（ナイトダンスツアー、恐怖の館）から、個別鑑賞券に需要が集まった。

協賛金・各種助成金の額・件数については 32 件、74 百万円となり、2012 年（32 件、69 百万円）をやや上回った。混浴&BAM の経済波及効果を一定の仮定のもとで算出すると、約 3 億 2 千万円の観光消費を誘発したとの結果が得られた。

（5）地方創生の視点

地方創生の視点では、前述の 4 つの視点を踏まえつつ、混浴、BAM が別府におけるさまざまな地域課題の解決に寄与しえたかという観点に関する評価を行う。

BAM 2015 の来場者数は 5.3 万人となり、同じく約 2 ヶ月間開催した 2012 年（5.4 万人）とほぼ同数となった。但し、BAM の最大の目的はアートの担い手としての市民参加を進めることにあり、来場者という受け手の数の増加を過度に高評価することは控えたい。もちろん多くの来場者を迎えることは、実施者の大きな励みとなるものである。2012 年、2015 年の実績は、BAM を単独で開催（1 ヶ月間）した 2013 年 25,147 名、2014 年 26,111 名の約 2 倍の水準となっており、市民文化祭としての BAM が地域に定着した姿が窺える。

また、来場者数という量に加え、BAM の質の面においても、高い評価（BAM に参加した感想として、「大変よい」＋「よい」との回答の構成比が、来場者アンケートで 95%、実施者アンケートで 99%）が得られた。

混浴については、広域から観光客を誘致することで、別府の新たな魅力を全国発信することが、市民参加や人材育成と並んで大きな目的である。ゆえに、来場者数という業績成果指標の持つ意義は、BAM よりも重要と考えられる。但し、今回の混浴は、来場者の量的拡大よりも、別府の街のディープな魅力を体験してもらうことで、別府観光のリピーターになってもらうことを目指した。夏期の開催という事情も踏まえて、夕刻から夜間にかけてのプログラムを充実させることで、別府への滞在期間の長期化を計画したところである。このため、来場者数については、2012 年の実績 11.7 万人に対して、2015 年の目標値を 3 万人と低く設定したが、実績は 5.4 万人となり目標を上回った。質的な側面においても、来場者の満足度は 92%と前回並の高い水準を維持した。さらに来場者の滞在期間も、前回は日帰り（37%）が最も高かったのに対して、今回は 2 泊（33%）という回答が日帰り（30%）を上回った。宿泊者の平均滞在日数も前回の 1.67 泊から 1.91 泊へと長期化し、初期の目的を達成した。

実際に来場した人数と同時に、別府が「観光地型・文化芸術創造都市」として全国に情報発信され、地域ブランド力が向上するという定性的効果も重要である。こうした情報発信力を客観的・定量的に評価するうえで、業績評価指標には掲げていないが、広報活動の展開によるメディアへの掲載件数とそれらの報道の広告換算の結果を見てみたい。これによれば 359,215,558 円となり、2012 年の 465,798,279 円と比べると 106,582,721 円下回った。しかしながら、媒体件数で比較すると、2012 年が 199 件であったのに対し 554 件、中でも全国媒体に関しては 54 件に対して 417 件と約 8 倍の結果となった。

以上では、来場者数を中心に、事前に設定したターゲットを達成できたか否かを検証した。しかしながら、別府の地域課題の創造的解決への寄与という最終目的に照らせば、会期中の来場者数はあくまで短期的目標に過ぎず、中長期的には、別府における創造的人材の育成・誘致や、会期中に止まらない別府全体の交流人口の拡大こそが重要なインパクトといえる。こうした目標を短期的に評価することはたいへん難しいが、参考指標として、BAM の来場者アンケートにおいて「来年はプログラム実施者として参加したいか？」という質問に対して、38%の来場者が「はい」と答えたことを挙げておきたい。この結果は、2012 年 23%、2013 年 36%、2014 年 29%と高い割合を保っており、別府における市民の主体的参画が今後も見込まれることを示している。来場者の中に、潜在的なプログラム実施者がまだこれだけ存在するということは、別府の大きなポテンシャルといえる。

こうした人々が将来、別府の文化芸術活動や市民活動に積極的に参画することで、最終目的である別府の創造性向上につながっていくだろう。そして彼らの存在は、別府における今後のアートプロジェクトを担う地域インフラともなる。彼らがプログラム実施者として参画することで「地域再生の視点」はふたたび「創造と学習の視点」へと回帰し、創造都市実現に向けた好循環が描かれることが期待される。

6-3．今後に向けた課題

以下では、これまでの検証を踏まえた今後の主な課題について改めて整理を行う。

別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」実行委員会では、2009 年より混浴を 3 年に一度、2010 年より BAM を毎年開催してきたが、このうち混浴については、3 度目となる今回を 10 年の活動の集大成と位置づけ、一時休止したうえで、新たなかたちを模索していくこととしている。

片や、ここ 10 年間の大分県の動向をみると、国見町工房ギャラリーめぐり（国東市）、TAKETA ART CULTURE（竹田市）、国東半島芸術祭（国東市、豊後高田市）、おおいたトイレンナーレ（大分市）、JR 九州おおいたトレインナーレ（県内広域）など、各地でアートプロジェクトが始まっている。大分市内では 2015 年 4 月に坂 茂が設計した大分県立美術館（OPAM）や、水戸岡 鋭治がデザインした JR おおいたシティ、アートな遊具を設置した水族館「うみたまご」の新施設「あそびーち」がオープンするなど、文化施設・集客施設におけるアートの取り組みも進んでいる。大分県としては、2015 年を中心としたこれらのアートプロジェクトを大分の文化的なレガシー（未来へ残す財産）として活かすべく、2018 年に国民文化祭を誘致するとともに、2019 年のラグビー・ワールドカップ、2020 年の東京五輪において、県内で多彩な文化プログラムを実施する長期計画を策定している。

県全体としてこうした取り組みを強力に推進していくうえで、大分県における現代芸術フェスティバルの先達たる別府市の果たす役割は引き続き極めて重要であろう。そして、混浴の見直しを図る際には、県内各地における文化プログラムとの広域連携の視点がより重要になるものとみられる。同時に、県内に多彩な文化プログラムが催される中で、その中に埋没することなく「別府らしさ」をしっかり出していくことが重要である。そうした意味で、まちなかに深く入り込む今回のツアー方式や、わくわく混浴デパートメントにおけるアーティストから市民までを巻き込んだ取り組みは大きなヒントとなるものと考える。

7. 総括と展望

2009年に第１回を開催した「混浴温泉世界」は、３回目となる本展で終了する。それは、別府市における芸術祭の在り方を、現在の別府市や大分県の状況を踏まえ、見直したいという思いからである。ここでは、これまでの３回を振り返り、プロデューサーの立場から今後の展望について考えてみたい。

第１回の「混浴温泉世界」は、市内のアートNPO、BEPPU PROJECTが発起団体となり、行政や公的団体、大学、民間企業、NPOなどが参画する実行委員会を組織し、2009年の春に開催された。大分県では初めての国際芸術祭でもあり、市内及び県内での認知度はまだまだ低かった。経験のある外部のサポートはあったものの、事務局を担うBEPPU PROJECTで実際に業務にあたったのは若手スタッフが中心で、経験値の不足もあり運営面では混乱をきたした。しかし、そのことが逆に功を奏し、別府市民のサポートが徐々に増え、県内外からの学生を中心とした多くのボランティア(のちの「ばんだいさん」)の活躍によって、約２ヶ月間の会期を大きな事故もなく終えることができた。NHK教育テレビ「日曜美術館」で特集された効果もあり、会期後半には多くの観客でにぎわった。

また、別府市内各所に作品が点在し、マップ片手にそれらを巡り別府と出会うという手法も、多くの観客や市民から歓迎された。昭和50年代をピークに徐々に観光客が減少していた別府市は、それまで中高年男性の団体客を主なターゲットにしていたが、本事業は若年層女性・個人客が全体の４割に及び、これまでとは違う層の参加が、従来の別府観光とは大きく異なっていた。

さらに、別府市中央公民館で開催された一般市民が出演するコミュニティダンス「オープン・ルーム」や商店街でのダンスイベント「ダンサーを探せ!!」、戦後すぐに建てられ、その役目を終えかけていたアパートを舞台に、合計132組が入れ替わり立ち替わり参加したアーティスト・イン・レジデンス展「わくわく混浴アパートメント」などの動的なプロジェクトは、同様のイベントがその後も全国各地で開催されるなど、新たなモデルとなる事業が生まれたのも大きな特徴と言えるだろう。

広告効果など、当初想定したイメージを超える成果を上げたこともあり、別府市における芸術振興の多角度からの役割を改めて認識した実行委員会は、この芸術祭を全３回の開催と決め、基盤の整備を始めた。2010年11月には、ディレクター制で進めている「混浴温泉世界」とは対照的な、誰もが参加できる市民文化祭「ベップ・アート・マンス」を実施。以降、毎年開催し、３年に一度行う「混浴温泉世界」との両輪で別府市の活性化の一翼を担ってきた。

基盤整備にあたり、まず重要視したのは事務局機能の強化である。準備期間の３年間で様々に経験を積み、１回目の開催時に比べ３倍以上の人員で、2012年秋に２回目の開催を迎えた。予算も倍増し、規模の大きな作品や現在でも運営されているアート旅館も生まれ、県内での認知も徐々に広がった。しかし皮肉なことに、事務局の整備が進んだことで市民が関わりにくくなり、ばんだいさんの参加も当初の想定より少なくなったことが大きな反省として残った。また、広報の専門家を立てなかったことで、思ったように全国的な広報が進まず、期待したほどの成果が上げられなかったことも反省材料である。

第２回の開催で最も注目されたのは、リノベーションした旧ストリップ劇場「永久別府劇場」を会場に、毎週末開催したパフォーマンス公演「混浴ゴールデンナイト！」だった。その中で唯一、毎週連続出演を果たした異色の金粉ダンサー集団「The NOBEBO」は、観客に新鮮な驚きを提供した。開幕当初の観客はまだまだ少なかったが、彼らの人気が次第に評判を呼び、会期半ばから連日満員御礼となり、アートファンだけではなく、別府市民も多く参加する人気イベントとして育っていった。

芸術祭を２度開催したことで、この町で行う芸術祭には身体性が不可欠であると手応えを得て、それをさらに進めていくことを念頭に置き、第３回の準備に入る。

第３回となる本芸術祭は、前述のようにツアーを中心とした企画構成となっている。ツアーとは言っても、まるで演劇を鑑賞しているかのような体験を提供できる企画であることを目指した。量よりも体験の質を重視するために、参加人数

を限定すべきと考え実行委員会で諮った際に、満場一致でその方向に舵を切り直すことに決定できたことが、準備期間を含めこの10年間を振り返っても非常に感慨深い。チケットも早々に売り切れ、可能な限りの増便を出したがそれも完売し、参加できなかった方々には大変ご迷惑をおかけしたし、参加者数を限定するという考え方に対する批判も少なからずあった。

しかし、全国で多くの芸術祭が開催されるようになった現在、成果＝観客参加数だけで判断される風潮に対し、一石を投じることができたのではないかと我々は考えている。別府は現在まちづくりが盛んな地域として全国でも知られているが、それらの活動のルーツは、市民自ら案内する路地裏散策にある。本芸術祭は、別府という地域性を活かしたアートプロジェクトの実現を目指している。戦災を免れたことで路地が多く残る町の構造を活かし、その奥へと侵入していくために企画した、アート版・路地裏散策とも言えるツアー事業は、最終回である本芸術祭において必然であったと考える。

10年前には予想もできなかったが、現在、大分県内各地でアートプロジェクトが展開されている。地域性を活かしコンパクトに作りかえた本芸術祭が核となり、各地域と広域的に連携を図れたことは今回の大きな成果と言える。

アートによって地域を読み直そうとする「混浴温泉世界」の大きな目標は、忘れられていた別府という町のファンを作ることである。市民も、そうでない人も、性別も、国籍も、肌の色も、宗教も全てを超え、この地で、ある一時を共有すること。そして、それぞれが三々五々この地を離れても、また出会う日まで、帰って来ることができる場所を育み守っていくこと。それこそが「混浴温泉世界」というタイトルに込めた想いである。この奇抜なネーミングは単なるタイトルではなく、我々の態度表明であり全ての価値基準なのだ。

今回で「混浴温泉世界」という芸術祭は幕を引くが、本実行委員会の拠り所として、これからも「混浴温泉世界」という考え方は残っていく。それを踏まえ、この３回で見出した３つの在り方、”身体性を重視すること”、”量よりも体験の質を重視すること”、”地域性を活かすこと”をさらに深化させ、芸術祭に代わるアートプロジェクトを実現したい。本芸術祭後に開かれた実行委員会でも、「今後はさらにエッジの効いたプロジェクトであるべきだ」という意見が相次いだように、別府ならではの思い切ったプロジェクトを目指したい。そのためにも、３回を通して成長した事務局スタッフだけではなく、さらにより多くの市民が運営に参加しながら、今後も継続される「ベップ・アート・マンス」の目玉事業として実施したい。

今後はますます、別府市や大分県の政策も踏まえながら、事業の位置づけを考えていくことが求められる。2018年には大分県で国民文化祭が開催される。さらに、19年のラグビーワールドカップや20年の東京オリンピック・文化プログラムの開催も予定されている。それらを視野に、県下全域での連携をさらに進め、そのリーディング事業となりうるアートプロジェクトを創出することが使命となるだろう。

そしてこれら一連の活動を、芸術振興にだけ留めるのではなく、大分県における地方創生の一翼を担う事業として成長させるため、今後も歩み続ける。

この地域、この国がまた以前のように希望に満ち溢れた未来を描けるように。

別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」実行委員会
総合プロデューサー　山出淳也

［お問い合わせ］
別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」実行委員会事務局 (NPO法人 BEPPU PROJECT内)
tel：0977-22-3560　e-mail：info@beppuproject.com
営業日：月〜金 9:00〜17:30